

Oracle® Server X5-8 Linux オペレーティング システムインストールガイド



Part No: E65052-01
2015 年 7 月

Part No: E65052-01

Copyright © 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用方法	7
Linux オペレーティングシステムのインストールについて	11
サポートされている Linux オペレーティングシステム	12
Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux	13
コンソール表示オプションの選択	13
コンソール表示オプション	13
▼ ローカルコンソールを設定する	14
▼ リモートコンソールを設定する	14
ブートメディアオプションの選択	15
ブートメディアオプションの要件	16
▼ ローカルインストール用のブートメディアを設定する	17
▼ リモートインストール用のブートメディアを設定する	17
インストール先オプションの選択	20
インストール先オプション	20
▼ ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する	21
▼ ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する	22
Linux OS のインストールオプション	22
単一サーバーのインストール方法	23
Linux OS の補助付きインストール	23
Linux OS の手動インストール	24
Linux オペレーティングシステムのインストールの準備	25
ブート環境の準備	25
▼ UEFI の最適なデフォルト値を確認する	26
▼ ブートモードを設定する	28
RAID の構成	31

Linux オペレーティングシステムのインストール	33
Oracle System Assistant を使用した Linux OS の単一システムへのインストール	33
▼ Oracle System Assistant を使用して Linux OS をインストールする	33
Oracle Linux の単一システムへの手動でのインストール	38
Oracle Linux 6.6 または 7.1 OS のインストールのタスクマップ	38
始める前に	39
▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 6.6 OS を手動でインストールする	40
▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 7.1 OS を手動でインストールする	59
▼ PXE ネットワークブートを使用して Oracle Linux 6.6 または 7.1 をインストールする	65
Oracle Linux 6.6 または 7.1 OS のインストール後のタスク	69
Red Hat Enterprise Linux OS の単一システムへの手動でのインストール	69
RHEL 6.6 または 7.1 OS のインストールのタスクマップ	69
始める前に	70
▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して RHEL 6.6 または 7.1 OS を手動でインストールする	71
▼ PXE ネットワークブートを使用して RHEL 6.6 または 7.1 をインストールする	74
RHEL 6.6 または 7.1 OS のインストール後のタスク	78
 索引	 79

このドキュメントの使用方法

- **概要** – このインストールガイドには、Linux オペレーティングシステムをインストールするための手順と、Oracle Server X5-8 を構成可能かつ使用可能な状態にするための初期のソフトウェア構成手順が含まれています。
- **対象読者** – 技術者、システム管理者、認定サービスプロバイダ、およびシステムユーザー。
- **必要な知識** – オペレーティングシステムをインストールした経験。

このセクションでは、Oracle Server X5-8 用の最新のファームウェア、ソフトウェア、およびドキュメントを入手する方法について説明します。また、フィードバック用のリンクおよびドキュメントの変更履歴も提供されています。

- [7 ページの「Oracle Server X5-8 モデルの命名規則」](#)
- [7 ページの「最新のファームウェアとソフトウェアの入手」](#)
- [8 ページの「ドキュメントとフィードバック」](#)
- [8 ページの「寄稿者」](#)
- [8 ページの「変更履歴」](#)

このドキュメントセット内の情報は (オンラインヘルプと同様の) トピックに基づいた形式で提供されているため、章、付録、セクション番号などは含まれていません。

Oracle Server X5-8 モデルの命名規則

Oracle Server X5-8 の名前は、次のものを識別します。

- X は、x86 製品を識別します。
- 最初の数字 5 は、サーバーの世代を識別します。
- 2 番目の数字 8 は、プロセッサの最大数を識別します。

最新のファームウェアとソフトウェアの入手

各 Oracle x86 サーバー用のファームウェア、ドライバ、その他のハードウェア関連のソフトウェアは定期的に更新されます。

最新バージョンは、次の 3 つの方法のいずれかで入手できます。

- Oracle System Assistant: これは、工場出荷時にインストールされる Oracle x86 サーバー用のオプションです。これは必要なすべてのツールとドライバを含んでおり、ほとんどのサーバーに取り付けられている USB ドライブ上に存在します。
- My Oracle Support (<https://support.oracle.com>) から更新をダウンロードできます。
- 物理メディアのリクエスト: My Oracle Support から入手可能なダウンロード (パッチ) を含む DVD を要求できます。サポート Web サイト上の「問合せ」リンクを使用してください。

ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://docs.oracle.com
Oracle Server X5-8	http://www.oracle.com/goto/X5-8/docs-videos
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)。Oracle ILOM のドキュメントを参照してください。	http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs
Oracle Hardware Management Pack。『プロダクトノート』に一覧表示されている、サポートされているバージョンの Oracle Hardware Management Pack のドキュメントを参照してください。	http://www.oracle.com/goto/ohmp/docs

このドキュメントについてのフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> にお寄せください。

寄稿者

主著者: Michael Bechler、Cynthia Chin-Lee、Mark McGothigan。

寄稿者: William Schweickert、Anthony Villamor、Mick Tabor、Richard Masoner、Ray Angelo、Tamra Smith-Wasel、Denise Silverman。

変更履歴

このドキュメントセットのリリース履歴を次に示します。

- 2015 年 7 月。初版。

Linux オペレーティングシステムのインストールについて

このセクションでは、Oracle Server X5-8 に新しい Linux オペレーティングシステム (OS) をインストールする手順の概要を示します。

説明	リンク
サポートされる Linux オペレーティングシステムを確認します。	12 ページの「サポートされている Linux オペレーティングシステム」
Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux およびこれが使用できる場合について確認します。	13 ページの「Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux」
コンソール表示オプションとそれらを設定する方法を確認します。	13 ページの「コンソール表示オプションの選択」
ブートメディアオプションとそれらを設定する方法を確認します。	15 ページの「ブートメディアオプションの選択」
インストール先オプションとそれらを設定する方法を確認します。	20 ページの「インストール先オプションの選択」
OS のインストールオプションを確認します。	22 ページの「Linux OS のインストールオプション」
Oracle System Assistant を確認します。	「Oracle System Assistant」 in 『Oracle X5 Series Servers Administration Guide』

注記 - このドキュメントでは、手動で、または Oracle System Assistant を使用して、サポートされている Linux OS をインストールする方法について説明します。システムにプリインストール OS が付属していた場合は、その構成方法についてサーバーのインストールガイドを参照してください。

関連情報

- [33 ページの「Linux オペレーティングシステムのインストール」](#)

サポートされている Linux オペレーティングシステム

Oracle Server X5-8 は、次の最小 Linux オペレーティングシステムをサポートしています。

Linux OS のバージョン	エディション
Oracle	Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux Release 3 Update 5 を備えた Oracle Linux 6.6 および 7.1 OS for x86 (64 ビット) 注記 - オプションで、Red Hat 互換カーネルを Oracle Linux 6.6 および 7.1 OS for x86 (64 ビット) で使用できます。
Red Hat	Red Hat Enterprise Linux 6.6 および 7.1 OS for x86 (64 ビット) 注記 - オプションで、Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux Release 3 u5 を Red Hat Enterprise Linux 6.6 および 7.1 OS for x86 (64 ビット) にインストールできます。

Linux ハードウェア互換リスト (HCL) は、Linux オペレーティングシステムと互換性があるハードウェアを識別します。Oracle Server X5-8 でサポートされている Linux の最新バージョンを見つけるには、次のサイトにアクセスし、サーバーのモデル番号を使用して検索してください。

- Oracle Linux – <http://linux.oracle.com/pls/apex/f?p=117:1:3991604960223967>
- Red Hat Enterprise Linux – <https://access.redhat.com/certifications>

注記 - オペレーティングシステムの最新のすべての要件については、最新バージョンの『Oracle Server X5-8 Product Notes』を参照してください。さらに、サポートされているその他の任意のオペレーティングシステムまたは仮想マシンソフトウェアをサーバーにインストールできます。<http://www.oracle.com/goto/X5-8/docs-videos> にある最新バージョンの『Oracle Server X5-8 Product Notes』を参照してください。

注記 - Oracle Linux 6.6 OS がプリインストールされていた場合、それはサーバーがレガシー BIOS に設定された状態でインストールされています。サーバーを UEFI ブートモードでブートするように選択した場合は、プリインストールされたイメージにアクセスできません。そのため、UEFI/BIOS ブートモードが UEFI に設定された状態で Oracle Linux 6.6 OS を使用する場合は、Oracle Linux 6.6 OS の新規インストールを実行する必要があります。

関連情報

- 33 ページの「Linux オペレーティングシステムのインストール」
- 「Supported Operating Systems」 in 『Oracle Server X5-8 Product Notes』

Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux

このリリースのサーバーソフトウェアでは、Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux の Release 3 がサポートされています。Release 3 は、デフォルトでは Oracle Linux 6.6 および 7.1 OS にインストールされており、Red Hat Enterprise Linux 6.6 および 7.1 OS にインストールできます。Release 3 は、3.8.x メインライン Linux カーネルに基づいており、Release 2 のカーネル以降にメインライン Linux に組み込まれた機能強化と新機能が含まれています。

関連情報

- Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux: オペレーティングシステムの互換性およびインストール情報の参照先に関する最新情報については、次の Web サイトにある『Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 のリリースノート』を参照してください。

http://docs.oracle.com/cd/E37670_01/index.html

- 「Supported Operating Systems」 in 『Oracle Server X5-8 Product Notes』
- 33 ページの「Linux オペレーティングシステムのインストール」

コンソール表示オプションの選択

このセクションでは、インストールを実行するためにコンソールを接続するオプションについて説明します。

- 13 ページの「コンソール表示オプション」
- 14 ページの「ローカルコンソールを設定する」
- 14 ページの「リモートコンソールを設定する」

コンソール表示オプション

ローカルコンソールをサーバーのサービスプロセッサ (SP) に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。サーバーでは、2 種類のローカルコンソールをサポートしています。

- シリアル管理ポート (SER MGT) に接続された端末
この端末は、ポートに直接接続することも、ポートに直接接続された端末エミュレータに接続することもできます。
- ビデオポート (VGA) と 4 つの外部 USB コネクタのいずれかに直接接続した VGA モニター、USB キーボード、および USB マウス

また、サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うこともできます。2 種類のリモートコンソールがあります。

- Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続
- ネットワーク管理ポート (NET MGT) への Secure Shell (SSH) クライアント接続

▼ ローカルコンソールを設定する

1. ローカルコンソールを接続するには、次のいずれかを実行します。
 - 端末をシリアル管理ポート (SER MGT) に直接、または端末エミュレータ経由で接続します。
 - VGA モニター、キーボード、およびマウスをビデオポート (VGA) と USB ポートに接続します。
2. シリアル管理ポート (SER MGT) 接続の場合のみ、ホストシリアルポートへの接続を確立するには:
 - a. Oracle ILOM のユーザー名およびパスワードを入力します。
デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は root、デフォルトのパスワードは changeme です。
 - b. Oracle ILOM プロンプトで、次のように入力します。
-> `start /HOST/console`

シリアル管理ポート出力は、Linux ホストシリアルローカルコンソールに自動的にルーティングされます。

関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 ドキュメントライブラリ

▼ リモートコンソールを設定する

1. サーバー SP の IP アドレスを表示または確立します。
コマンド行インタフェース (CLI) または Web インタフェースを使用して Oracle ILOM にリモートでログインするには、サーバーのサービスプロセッサ (SP) の IP アドレス

を知っている必要があります。手順については、「[Modify Network Settings From the Oracle ILOM Web Interface](#)」 in 『Oracle Server X5-8 Installation Guide』を参照してください。

2. **Web ベースのクライアント接続を使用している場合は、この手順を実行します。それ以外の場合は、手順 3 に進みます。**
 - a. **Web ブラウザで、サーバー SP の IP アドレスを入力します。**
 - b. **Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。**
デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は root、デフォルトのパスワードは changeme です。
 - c. **Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。**
3. **SSH クライアント接続を使用している場合は、次の手順を実行します。**
 - a. **端末ウィンドウのシェルコマンド行から、サーバー SP への SSH 接続を確立します。**
「ssh root@hostname」と入力します。ここで、hostname にはサーバー SP の DNS 名または IP アドレスを指定できます。
 - b. **Oracle ILOM にログインします。**
デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は root、デフォルトのパスワードは changeme です。
 - c. **Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。**
-> start /HOST/console

関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 ドキュメントライブラリ

ブートメディアオプションの選択

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースをブートします。このセクションでは、サポートされているメディアソースと各ソースの設定要件を示します。

- [16 ページの「ブートメディアオプションの要件」](#)
- [17 ページの「ローカルインストール用のブートメディアを設定する」](#)
- [17 ページの「リモートインストール用のブートメディアを設定する」](#)

ブートメディアオプションの要件

このセクションでは、ローカルおよびリモートメディアを使用するための要件について説明します。

- [16 ページの「ローカルブートメディアの要件」](#)
- [16 ページの「リモートブートメディアの要件」](#)

ローカルブートメディアの要件

ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型のストレージデバイス、またはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。

DVD インストールメディアは、次のどの方法でも使用できます。

- サーバーに接続された外付けの DVD ドライブにインストールメディア DVD を挿入できます。
- インストールメディアを USB フラッシュドライブにコピーし、サーバーの USB ポートに挿入できます。

リモートブートメディアの要件

リモートブートメディアを使用すると、ネットワーク経由でインストールをブートできます。リダイレクトされたブートストレージデバイスか、または PreBoot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク経由で ISO イメージをエクスポートする別のネットワークシステムからインストールを開始できます。

サポートされている OS のリモートブートメディアソースには、次のものが含まれます。

- リモート DVD ドライブに挿入された DVD-ROM インストールメディア、および着脱可能なリモートの USB フラッシュドライブインストールメディア
- 仮想リダイレクション用に設定されたネットワーク上の場所で使用できる DVD ISO イメージ
- サーバーのサービスプロセッサ (SP) 上にマウントされた DVD-ROM インストールメディアイメージ

インストールイメージをサーバー SP にマウントする手順については、<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs>にある『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』を参照してください。または、Oracle ILOM の「Remote Control」->「Remote Device」Web インタフェースページの「More Details」リンクを参照してください。

- PXE ネットワークブートとして使用できるようにした DVD/ISO イメージ。サポートされている Linux オペレーティングシステムの PXE ネットワークインストールを実行する手順については、次の各セクションで説明されています。
 - 65 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Oracle Linux 6.6 または 7.1 をインストールする」
 - 74 ページの「PXE ネットワークブートを使用して RHEL 6.6 または 7.1 をインストールする」

▼ ローカルインストール用のブートメディアを設定する

ローカルブートメディアを設定するには、次のいずれかのオプションを使用して、Linux OS インストールメディアを含むストレージデバイスをサーバーに挿入する必要があります。

1. **Linux OS インストールメディアを含む外付けの USB DVD ドライブ**をサーバーの外部 USB ポートに挿入します。

注記 - サーバーの外部 USB ポートの場所については、「[Server Features and Components](#)」 in 『Oracle Server X5-8 Installation Guide』を参照してください。

2. **Linux OS インストールメディアを含む USB フラッシュドライブ**をサーバーの外部 USB ポートに挿入します。

▼ リモートインストール用のブートメディアを設定する

リモートストレージデバイスからブートメディアをリダイレクトするには、次の手順を実行します。

1. **ブートメディアをストレージデバイスに挿入します。次に例を示します。**
 - **DVD-ROM の場合は**、リモートワークステーション上の内蔵または外付けの DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。
 - **DVD-ROM ISO イメージの場合は**、ネットワーク共有された場所で ISO イメージがすぐに利用できること、または ISO イメージがサーバーのサービスプロセッサ (SP) にマウントされていることを確認します。

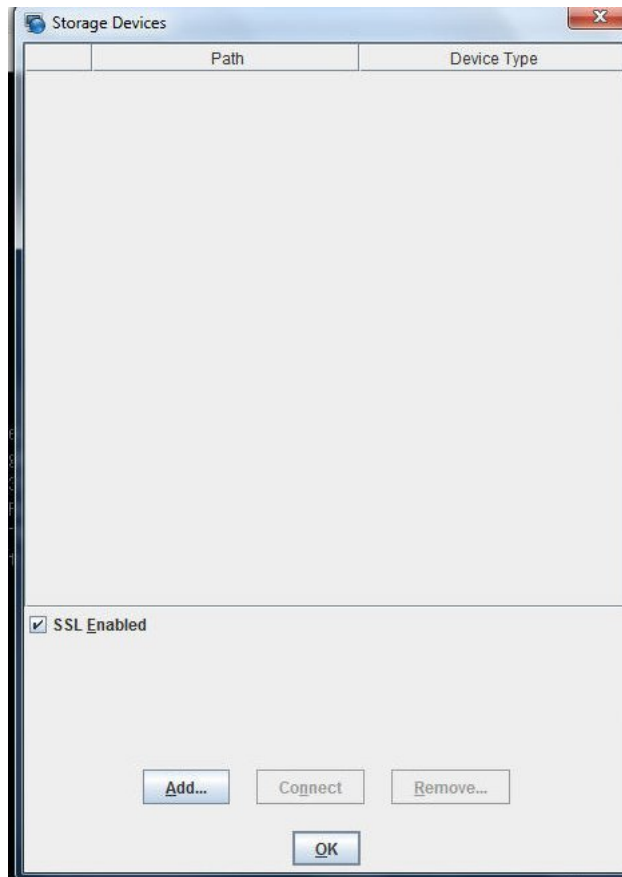
インストールイメージをサーバー SP にマウントする手順については、<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』を参照してください。または、Oracle ILOM の「Remote Control」->「Remote Device」Web インタフェースページの「More Details」リンクを参照してください。

2. サーバーの Oracle ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを起動します。

詳細は、13 ページの「コンソール表示オプションの選択」に示す Web ベースのクライアント接続に関する設定要件を参照してください。

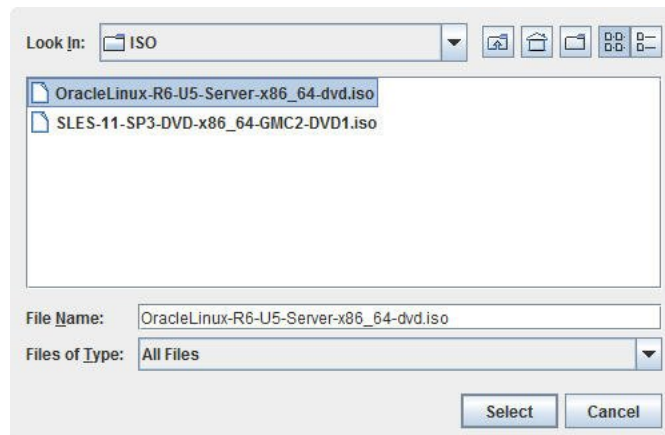
3. リモートコンソールで、次の手順を実行します。
 - a. 「KVMS」をクリックし、KVMS ドロップダウンメニューを表示します。
 - b. 「Storage」をクリックします。

「Storage Devices」ダイアログが表示されます。



- c. 「Storage Devices」デバイスで、「Add」をクリックします。

「Add Storage Devices」 ダイアログが表示されます。



- d. ISO イメージを参照して選択し、「Select」をクリックします。
「Storage Devices」画面が表示され、ISO イメージが一覧表示されます。
- e. ISO イメージを選択して、「Connect」をクリックします。
ISO イメージがリモートコンソールにマウントされ、OS インストールの実行に使用できるようになります。

インストール先オプションの選択

このセクションでは、インストール先を設定する方法について説明します。

- 20 ページの「インストール先オプション」
- 21 ページの「ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する」
- 22 ページの「ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する」

インストール先オプション

組み込み型の Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ (これは Oracle System Assistant 用に予約されています) を除き、サーバーに取り付けられたどのストレージ

ドライブにもオペレーティングシステムをインストールできます。これには、ハードディスクドライブ (HDD) とソリッドステートドライブ (SSD) が含まれます。

ファイバチャネル (FC) PCIe ホストバスアダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外付けのファイバチャネルストレージデバイスにインストールすることを選択できます。

注記 - NVMe ドライブは、Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムではサポートされていません。NVMe ドライブは、Oracle Linux オペレーティングシステムを実行しているサーバーではサポートされていません。

重要: 内蔵の USB 組み込み型の Oracle System Assistant フラッシュドライブをブートまたはストレージドライブとして使用しないでください

サーバーは、組み込み型の Oracle System Assistant USB フラッシュドライブを装備した状態で出荷されます。このドライブには、Oracle System Assistant、デバイスドライバ、および Oracle ILOM、BIOS、サポートされている IO デバイス用のファームウェアが含まれています。サポートされているすべてのオペレーティングシステムのインストール中に、この USB フラッシュドライブは、読み書き可能な 1 つのパーティションを含む SCSI ディスクとして検出され、ドライブのリストには `Oracle_SSM` と表示されます。次のいずれかの操作を実行するときに、このデバイスを上書きしないでください。

- オペレーティングシステムのインストール
- ディスクまたはパーティションのフォーマット操作
- 一般的なディスク、パーティション、またはファイルシステムの保守

この USB フラッシュドライブが上書きされた場合、元の内容を復元できます。USB フラッシュドライブの内容を復元するには、Oracle System Assistant 復旧および ISO 更新イメージを取得し、このイメージを使用して復元処理を実行します。

Oracle System Assistant 回復および ISO 更新イメージをダウンロードし、サーバーの Oracle System Assistant USB フラッシュドライブを復元する手順については、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

▼ ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する

- ターゲットドライブ (HDD または SSD) が正しく取り付けられ、電源が入っていることを確認します。

HDD または SSD の取り付けおよび電源投入については、「[Servicing Storage Drives](#)」 in 『[Oracle Server X5-8 Service Manual](#)』を参照してください。

▼ ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する

1. ファイバチャネル PCIe HBA がサーバーに正しく取り付けられていることを確認します。
ファイバチャネル PCIe HBA オプションの取り付けについては、「[Servicing PCIe Cards and the Dual PCIe Card Carriers \(DPCCs\)](#)」 in 『[Oracle Server X5-8 Service Manual](#)』を参照してください。
2. **Storage Area Network (SAN)** が取り付けられ、かつサーバーのホストでストレージデバイスが認識されるように構成されていることを確認します。
手順については、ファイバチャネル HBA に付属のドキュメントを参照してください。

Linux OS のインストールオプション

OS を単一のサーバーにインストールするか、複数のサーバーにインストールするかを選択できます。このドキュメントで扱う範囲は、単一のサーバーでの OS のインストールです。次の表に、これらの 2 つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用して、複数のサーバー上に OS をインストールできます。詳細は、 http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html にアクセスしてください。
単一のサーバー	次のいずれかの方法を使用して、単一のサーバーに OS をインストールします。 ■ ローカル: OS のインストールは、サーバーでローカルに実行されます。このオプションは、物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりのときにお勧めします。 ■ リモート: OS のインストールはリモートの場所から実行されます。Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用して、Oracle System Assistant にアクセスするか、OS の手動インストールを実行します。

オプション	説明
	注記 - Oracle は、単一サーバーの OS インストールに Oracle System Assistant を使用することをお勧めします。 単一サーバーの OS インストール方法と Oracle System Assistant の詳細は、次を参照してください。 23 ページの「単一サーバーのインストール方法」

単一サーバーのインストール方法

OS インストールメディアを提供するための方法を選択します。次の情報を使用して、ニーズにもっとも適したローカルまたはリモートの OS インストールを決定します。

メディアの配布方法	その他の要件
ローカルでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します。(推奨)	モニター、USB キーボードとマウス、USB デバイス、および OS 配布メディア。詳細については、 23 ページの「Linux OS の補助付きインストール」 を参照してください。
リモートでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します。(推奨)	Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーション、リダイレクトされた DVD ドライブまたは ISO イメージファイル、および OS 配布メディア。詳細については、 23 ページの「Linux OS の補助付きインストール」 を参照してください。
DVD ドライブを使用したローカル OS インストール - サーバーに接続された物理 DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードおよびマウス、USB DVD ドライブ、および OS 配布メディア。詳細については、 24 ページの「Linux OS の手動インストール」 を参照してください。
DVD ドライブまたは DVD ISO イメージを使用したリモート OS インストール - Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを実行しているリモートシステム上のリダイレクトされた物理 DVD ドライブまたは DVD ISO イメージを使用します。	ブラウザを備えたリモートシステム、接続された物理 DVD ドライブまたは ISO イメージファイル、OS 配布メディア、およびサーバーの管理ポートへのネットワークアクセス。詳細については、 24 ページの「Linux OS の手動インストール」 を参照してください。

Linux OS の補助付きインストール

Linux OS の補助付きインストールは、サポートされている OS をサーバーにインストールするための推奨される方法です。この方法では、Oracle System Assistant を使用します。OS インストールメディアをローカルまたはリモートの外付けの DVD ドライブ、USB デバイス、または DVD イメージで提供します。Oracle System Assistant がこのプロセスをガイドし、必要に応じてドライバを収集してインストールします。使用しているサーバーで Oracle System Assistant がサポートされ、そのサーバーにインストールされている必要があります。

Linux OS の手動インストール

Linux OS の手動インストールの方法では、Linux OS 配布メディアをローカルまたはリモートの外付けの DVD ドライブ、USB デバイス、または DVD イメージで提供します。また、必要なドライバをすべてインストールすることも必要です。サーバー用のドライバは、サーバーの内蔵 Oracle System Assistant フラッシュドライブ (取り付けられている場合) に用意されており、My Oracle Support Web サイトから OS 固有およびサーバー固有のパッケージまたは ISO イメージファイルとして入手することもできます。OS をインストールするには、配布メディアのインストールウィザードを使用します。

Linux オペレーティングシステムのインストールの準備

このセクションでは、オペレーティングシステムをインストールできるようにサーバーを準備する方法について説明します。

説明	リンク
サーバーの UEFI の最適化されたデフォルト値の確認および設定。	25 ページの「ブート環境の準備」 「Reset the BIOS Firmware to Default Settings (BIOS)」 in 『Oracle X5 Series Servers Administration Guide 』
ブートモードの構成。	28 ページの「ブートモードを設定する」 「Viewing or Modifying the Current Boot Mode」 in 『Oracle X5 Series Servers Administration Guide 』
サーバーでの RAID の構成。	31 ページの「RAID の構成」 「Configure Storage Drives for OS Installation」 in 『Oracle Server X5-8 Installation Guide 』

関連情報

- [33 ページの「Oracle System Assistant を使用した Linux OS の単一システムへのインストール」](#)
- [38 ページの「Oracle Linux の単一システムへの手動でのインストール」](#)
- [69 ページの「Red Hat Enterprise Linux OS の単一システムへの手動でのインストール」](#)
- [『Oracle Server X5-8 Product Notes 』](#)

ブート環境の準備

オペレーティングシステムをインストールする前に、Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) 設定が、実行する予定のインストールの種類をサポートするように構成されていることを確認するようにしてください。

次のトピックは、インストールをサポートするように UEFI を構成する方法に関する具体的な手順を示しています。

- 26 ページの「UEFI の最適なデフォルト値を確認する」
- 28 ページの「ブートモードを設定する」

UEFI ファームウェアの設定、UEFI の最適なデフォルト値の設定、およびブートプロパティーの変更の詳細は、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

UEFI は、オペレーティングシステムとプラットフォームファームウェアの間のソフトウェアインタフェースを定義する仕様です。UEFI は、基本入出力システム (BIOS) ファームウェアインタフェースを置き換えます。

▼ UEFI の最適なデフォルト値を確認する

注記 - この手順はオプションです。サーバーが新しく設置され、ここでオペレーティングシステムがはじめてインストールされる場合、UEFI ファームウェアはおそらくその最適なデフォルト設定に構成されているため、この手順を実行する必要はありません。

BIOS 設定ユーティリティーでは、必要に応じて UEFI 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。最適なデフォルト値を設定することによって、サーバーが既知の適切な構成で効率的に動作することが保証されます。最適なデフォルト値は、『Oracle Server X5-8 サービスマニュアル』で確認できます。

BIOS 設定ユーティリティーで F2 キーを使用して行なった変更はすべて、次にそれを変更するまで保持されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集するだけでなく、BIOS の起動中に F8 キーを使用して一時ブートデバイスを指定することもできます。F8 キーを使用して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートでのみ有効です。その一時ブートデバイスからブートしたあとは、F2 キーを使用して指定された常時ブートデバイスが有効になります。

始める前に 次の要件が満たされていることを確認してください。

- サーバーにハードディスクドライブ (HDD) またはソリッドステートドライブ (SSD) が搭載されていること。
- HDD または SSD がサーバーに正しく取り付けられていること。手順については、「[Servicing Storage Drives](#)」 in 『Oracle Server X5-8 Service Manual』を参照してください。

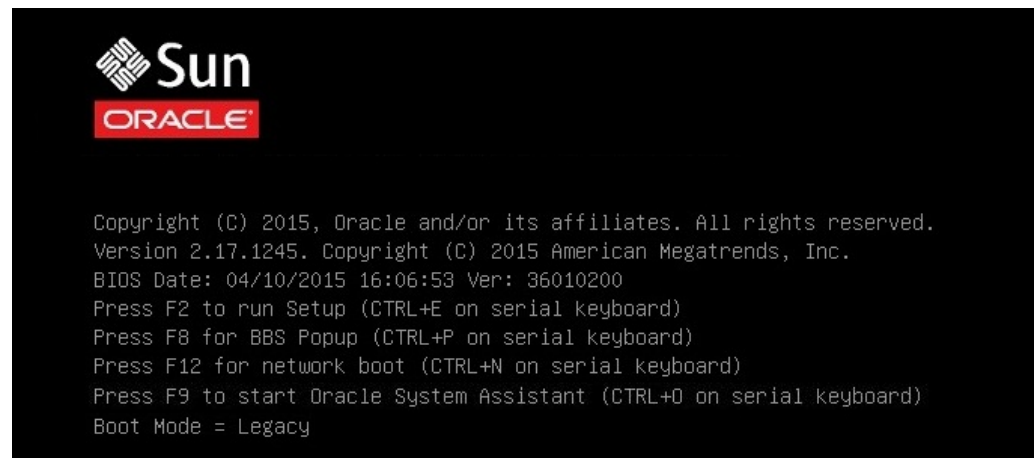
- サーバーへのコンソール接続が確立されていること。詳細は、[13 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)を参照してください。

1. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。

たとえば、次のいずれかを実行します。

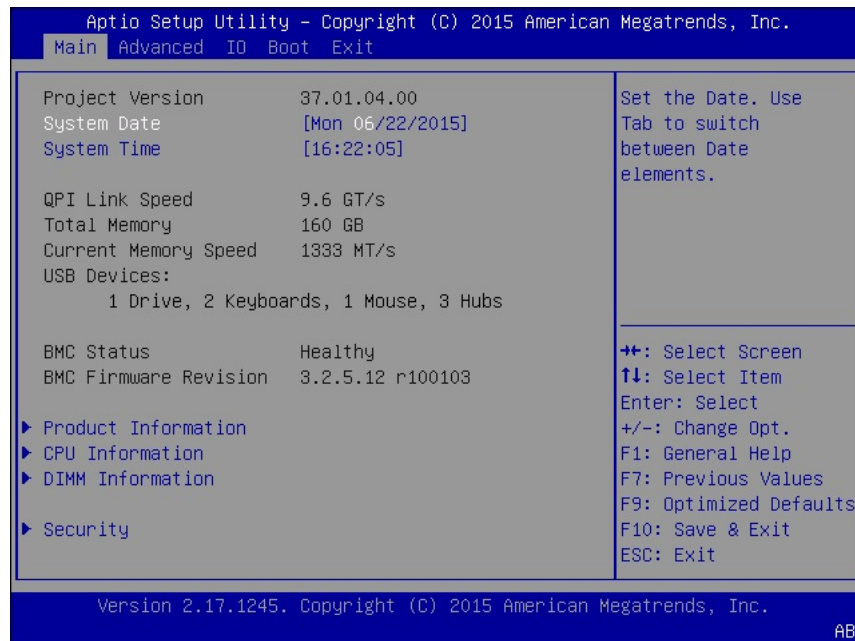
- **ローカルサーバーでは**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」をクリックし、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で**「`reset /System`」と入力します

サーバーがブートプロセスを開始します。しばらくすると、BIOS 画面が表示されます。



2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

「[Setup Selected]」およびブートモード (Legacy または UEFI) が BIOS 画面の下部に表示されて、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。



3. **F9** ファンクションキーを押すと、最適なデフォルト設定が自動的にロードされます。メッセージが表示され、「OK」を選択してこの操作を続けるか、「CANCEL」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。
4. メッセージで「OK」を強調表示して、**Enter** を押します。
5. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、**F10** キーを押します。または、「Exit」メニューから「Save and Exit」を選択できます。

▼ ブートモードを設定する

サーバーの UEFI ファームウェアでは、Legacy BIOS と UEFI の両方のブートモードがサポートされます。レガシー BIOS ブートモードはデフォルトで有効になっています。サポートされるすべての Linux オペレーティングシステムがレガシー BIOS と

UEFI の両方をサポートしているため、OS のインストールを実行する前に、ブートモードをレガシー BIOS と UEFI のいずれかに設定できます。

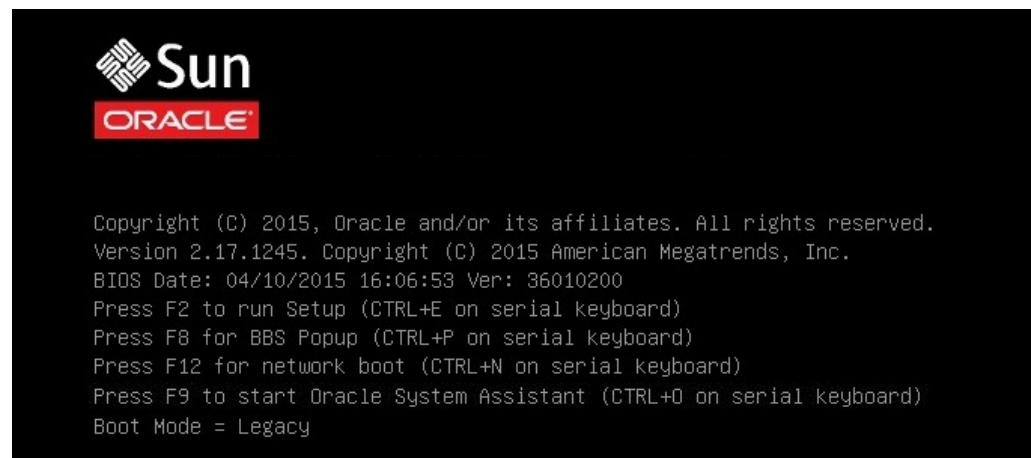
注記 - オペレーティングシステムをインストールしたあとで、レガシー BIOS から UEFI ブートモードに、またはその逆に切り替えることにした場合、オペレーティングシステムを再インストールする必要があります。

1. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。

たとえば、サーバーをリセットするには次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーでは**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから** 「Host Management」-> 「Power Control」をクリックし、次に 「Select Action」 リストボックスから 「Reset」 を選択して、 「Save」 をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で** 「reset /System」 と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



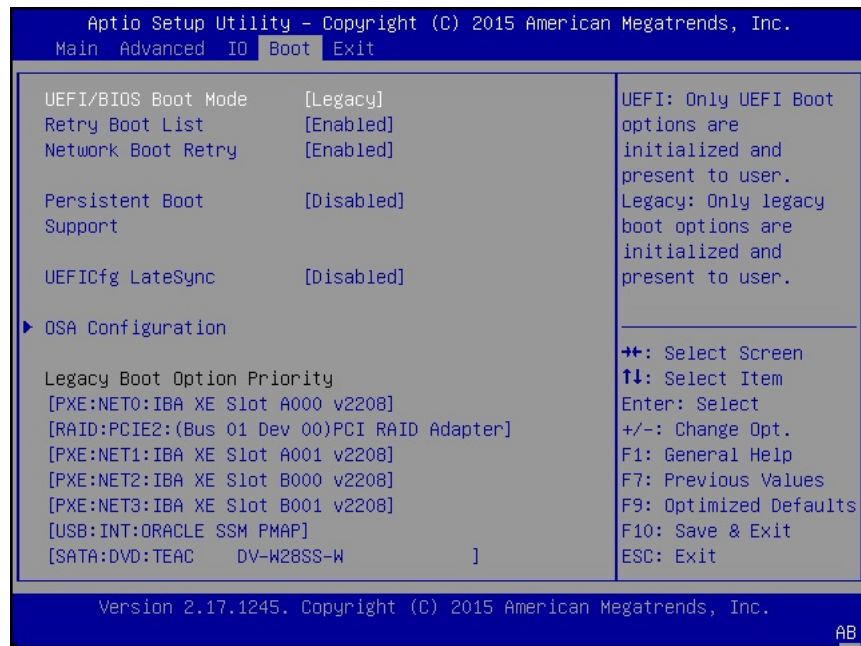
注記 - 次の手順がすぐに発生するため、F2 ファンクションキーを押せるようにしておきます。

2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

3. BIOS 設定ユーティリティで、矢印キーを使用して「Boot」メニューに移動します。

「Boot」メニュー画面が表示されます。



注記 - ブート順のリストのオプションは、ストレージドライブ構成と、Persistent Boot Support 機能を有効にしているかどうかによって異なります。Persistent Boot Support についての詳細は、『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

4. 下矢印キーを使用して「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択し、Enter を押します。
5. 目的のブートモードを選択し、Enter を押します。
6. 変更を保存して BIOS を終了するには、F10 キーを押します。

注記 - オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、目的のブートモード (レガシー BIOS または UEFI) を選択する必要があります。

RAID の構成

RAID 構成でサーバストレージドライブを構成する場合は、Linux OS をインストールする前にサーバー上に RAID を構成します。RAID を構成する手順については、「[Configure Storage Drives for OS Installation](#)」 in 『[Oracle Server X5-8 Installation Guide](#)』を参照してください。

関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』

Linux オペレーティングシステムのインストール

このセクションでは、Oracle Linux および Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムとシステム固有のドライバをサーバーにインストールする手順について説明します。

説明	リンク
Oracle System Assistant を使用した Linux オペレーティングシステムのインストール。	33 ページの「Oracle System Assistant を使用した Linux OS の単一システムへのインストール」
メディアを使用した Oracle Linux オペレーティングシステムの単一サーバーへのインストール。	38 ページの「Oracle Linux の単一システムへの手動でのインストール」
メディアを使用した Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムの単一サーバーへのインストール。	69 ページの「Red Hat Enterprise Linux OS の単一システムへの手動でのインストール」

Oracle System Assistant を使用した Linux OS の単一システムへのインストール

Oracle System Assistant の OS のインストールタスクは、サポートされている OS を Oracle Server X5-8 にインストールするための推奨される方法です。

- [33 ページの「Oracle System Assistant を使用して Linux OS をインストールする」](#)

▼ Oracle System Assistant を使用して Linux OS をインストールする

始める前に 次の要件が満たされていることを確認してください。

- [25 ページの「Linux オペレーティングシステムのインストールの準備」](#)の手順を実行します。

- ブートドライブ (つまり、OS をインストールしているストレージドライブ) を RAID 用に構成する場合は、Linux OS をインストールする前に行う必要があります。サーバー上に RAID を構成する方法については、「[Configure Storage Drives for OS Installation](#)」 in 『[Oracle Server X5-8 Installation Guide](#)』を参照してください。

1. インストールメディアがブートに使用できることを確認します。

- **配布 DVD の場合は**、Linux メディア (DVD) をローカルまたはリモートの DVD-ROM ドライブに挿入します。
- **ISO イメージの場合は**、ISO イメージが使用可能であり、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションがその ISO イメージをマウントしていることを確認します。

インストールメディアを設定する方法の詳細は、[15 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。

2. Oracle System Assistant を Oracle ILOM Web インタフェースから直接起動する (推奨) には、次の手順を実行します。それ以外の場合は、[ステップ 3](#)に進みます。

a. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。

Oracle ILOM の「Summary Information」ページが表示されます。

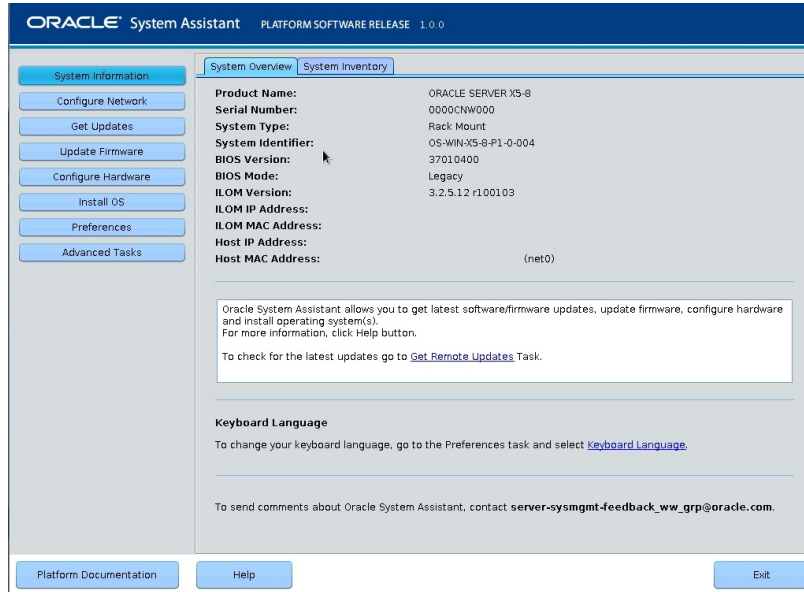
The screenshot shows the Oracle ILOM Web interface. The top navigation bar includes 'About', 'Refresh', and 'Logout'. The main content area is titled 'Summary Information' and contains a table of system details and a status section.

General Information			
System Type	Rack Mount		
Model	ORACLE SERVER X5-8		
OPart ID	Q11159		
Part Number	0FM-X441-36		
Serial Number	00000-00-12345		
Component Model	ORACLE SERVER X5-8		
Component Part Number	000-0000-00		
Component Serial Number	0000CNW000		
System Identifier	OS-WIN-X5-8-P1-0-004		
System Firmware Version	3.2.5.12		
Primary Operating System	Not Available		
Host Primary MAC Address			
ILOM Address			
ILOM MAC Address			

Status			
Overall Status: OK Total Problem Count: 0			
Subsystem	Status	Details	Inventory
Processors	OK	Processor Architecture: x86 64-bit Processor Summary: Eight Intel Xeon Processor E7 V3 Series	Processors: 8 / 8 (installed / Maximum)
Memory	OK	Installed RAM Size: 176 GB	DIMMs: 11 / 192 (installed / Maximum)
Power	OK	Permitted Power Consumption: 3754 watts Actual Power Consumption: 541 watts	PSUs: 4 / 4 (installed / Maximum)
Cooling	OK	Inlet Air Temperature: 26 °C Exhaust Air Temperature: Not Supported	Chassis Fans: 16 / 16 (installed / Maximum) PSU Fans: Not Supported
Storage	Not Available	Installed Disk Size: Not Available Disk Controllers: Not Available	Internal Disks: 1 / 8 (installed / Maximum)
Networking	OK		Ethernet NICs: 2 (installed)

- b. Oracle ILOM の「Summary Information」ページの「Actions」パネル (下を参照) で Oracle System Assistant の「Launch」ボタンをクリックします。

Oracle System Assistant の「System Overview」画面が表示されます。



- c. ステップ 4 に進みます。

3. Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションと BIOS を使って Oracle System Assistant を起動するには、次の手順を実行します。

- a. Oracle ILOM の「Summary Information」ページで、「Remote Console Launch」ボタンをクリックします。

「Oracle ILOM Remote System Console Plus」ウィンドウが表示されます。

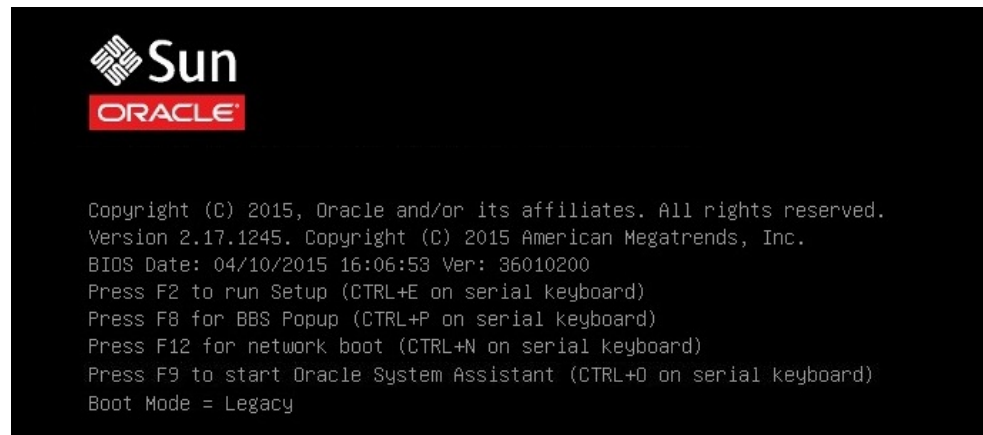
- b. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。

たとえば、次のいずれかを実行します。

- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。

- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」をクリックし、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で**「reset /System」と入力します

Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションに BIOS 画面が表示されます。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

c. F9 キーを押して Oracle System Assistant を起動します。

Oracle System Assistant の「System Overview」画面が表示されます。

注記 - Oracle Assistant Overview 画面の表示に時間がかかる場合があります。しばらくお待ちください。

4. Oracle System Assistant を最新のソフトウェアリリースバージョンに更新するには、Oracle System Assistant の「Get Updates」ボタンをクリックします。

このアクションにより、OS のインストール開始前に、最新バージョンの Oracle System Assistant がサーバーに確実にインストールされます。

注記 - Oracle System Assistant を更新するには、サーバーの Web アクセスが必要です。

5. サーバーのファームウェアを更新するには、「Update Firmware」ボタンをクリックします。
このアクションにより、OS のインストール開始前に、サーバーのファームウェアおよび BIOS が確実に最新のものになります。
6. Linux OS をインストールするには、「Install OS」ボタンをクリックします。
「Operating System Installation」画面が表示されます。
7. 「Supported OS」ドロップダウンリストから、インストールする Linux OS (Oracle Linux または Red Hat Enterprise Linux) を選択します。
8. 画面の「Current BIOS mode」の部分で、Linux OS のインストールに使用する BIOS ブートモード (UEFI またはレガシー BIOS) を選択します。
BIOS ブートモードの変更方法の詳細は、<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs> にある『Oracle X5 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。
9. 画面の「Select Your Install Media Location」の部分で、インストールメディアの場所を選択します。
これは OS 配布メディアの場所です。オプションは「DVD」と「Network」です。

注記 - Oracle System Assistant は、PXE (Preboot eXecution Environment) インストールをサポートしません。

10. 画面の「Boot Disk」の部分で、Linux OS のインストール先となるデバイスを選択します。
11. 「Installation Details」をクリックします。
「Installation Details」ダイアログが表示されます。
12. 「Installation Details」ダイアログで、インストールしない項目を選択解除します。

注記 - 「Installation Details」ダイアログで、「OS」と「Drivers」のオプションは必須であり、選択解除できません。

13. 「Install Operating System」画面の最下部にある「Install OS」ボタンをクリックします。
14. プロンプトに従ってインストールを完了します。
サーバーがブートします。
15. 必要に応じて、Linux オペレーティングシステムのインストール後のタスクを実行します。

インストール後のタスクについては、次の各セクションを参照してください。

- 69 ページの「Oracle Linux 6.6 または 7.1 OS のインストール後のタスク」
- 78 ページの「RHEL 6.6 または 7.1 OS のインストール後のタスク」

Oracle Linux の単一システムへの手動でのインストール

このセクションでは、Oracle Linux 6.6 for x86 (64 ビット) オペレーティングシステムをインストールする方法について説明します。

- 38 ページの「Oracle Linux 6.6 または 7.1 OS のインストールのタスクマップ」
- 39 ページの「始める前に」
- 40 ページの「ローカルまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 6.6 OS を手動でインストールする」
- 59 ページの「ローカルまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 7.1 OS を手動でインストールする」
- 65 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Oracle Linux 6.6 または 7.1 をインストールする」
- 69 ページの「Oracle Linux 6.6 または 7.1 OS のインストール後のタスク」

Oracle Linux 6.6 または 7.1 OS のインストールのタスクマップ

次の表は、Oracle Linux OS を新しいインストールとしてインストールするための概略の手順の一覧とその説明を示しています。

手順	説明	リンク
1.	サーバーハードウェアを設置し、Oracle ILOM サービスプロセッサを構成します。	■ 「Install the Server into the Rack」 in 『Oracle Server X5-8 Installation Guide 』 ■ 「Cabling the Server」 in 『Oracle Server X5-8 Installation Guide 』 ■ 「Connecting to Oracle ILOM」 in 『Oracle Server X5-8 Installation Guide 』
2.	プロダクトノートを確認します。 サーバーでサポートされている Oracle Solaris のバージョンを確認します。	『Oracle Server X5-8 Product Notes』 「Supported Operating Systems」 in 『Oracle Server X5-8 Product Notes』 http://www.oracle.com/goto/X5-8/docs-videos にある 『Oracle Server X5-8 プロダクトノート』 12 ページの「サポートされている Linux オペレーティングシステム」
3.	インストールを実行するために使用するコンソール、Oracle	■ 13 ページの「コンソール表示オプションの選択」

手順	説明	リンク
	Linux メディア、およびインストール先を設定します。	■ 15 ページの「ブートメディアオプションの選択」 ■ 20 ページの「インストール先オプションの選択」
4.	OS の新規インストール用に BIOS 設定を指定します。	25 ページの「ブート環境の準備」
5.	Oracle Linux OS をインストールします。	■ 40 ページの「ローカルまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 6.6 OS を手動でインストールする」 ■ 59 ページの「ローカルまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 7.1 OS を手動でインストールする」 ■ 65 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Oracle Linux 6.6 または 7.1 をインストールする」
6.	インストール後のタスクを実行します。	69 ページの「Oracle Linux 6.6 または 7.1 OS のインストール後のタスク」

関連情報

- [25 ページの「Linux オペレーティングシステムのインストールの準備」](#)

始める前に

次の要件が満たされていることを確認してください。

- ブートドライブ (つまり、OS をインストールしているストレージドライブ) を RAID 用に構成する場合は、Linux OS をインストールする前に行う必要があります。サーバー上に RAID を構成する方法については、[「Configure Storage Drives for OS Installation」](#) in 『Oracle Server X5-8 Installation Guide』を参照してください。
- ファームウェアを目的のブートモード (レガシー BIOS または UEFI) に設定します。ブートモードを設定する方法については、[28 ページの「ブートモードを設定する」](#)を参照してください。
- UEFI ファームウェアの設定が正しく設定されていることを確認します。UEFI ファームウェアの設定を確認し、必要に応じてそれを設定する方法については、[25 ページの「ブート環境の準備」](#)を参照してください。
- インストールを実行する前に、コンソール表示オプションが選択および設定されていること。このオプションの詳細は、[13 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)を参照してください。
- インストールの実行前に、ブートメディアオプションが選択および設定されています。このオプションおよび設定手順の詳細は、[15 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。
- インストールを実行する前に、インストール先オプションが選択および設定されていること。このオプションと設定手順の詳細は、[20 ページの「インストール先オプションの選択」](#)を参照してください。

▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 6.6 OS を手動でインストールする

この手順では、ローカルまたはリモートメディアから Oracle Linux オペレーティングシステムをインストールする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから Oracle Linux インストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Oracle Linux 6.6 DVD セット (外付け DVD)
- Oracle Linux 6.6 の ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、[65 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Oracle Linux 6.6 または 7.1 をインストールする」](#)の手順を参照してください。

1. インストールメディアがブートに使用できることを確認します。

- **配布 DVD の場合は**、Oracle Linux 6.6 配布メディアブートディスク (DVD) をローカルまたはリモートの DVD-ROM ドライブに挿入します。
- **ISO イメージの場合は**、Oracle Linux 6.6 ISO イメージが使用可能であり、その ISO イメージが KVMs メニューを使用して Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションにマウントされていることを確認します。

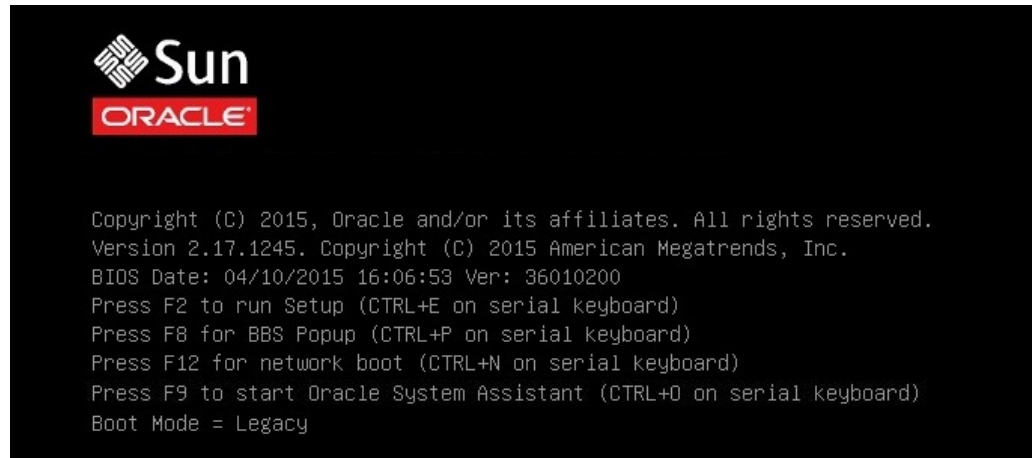
インストールメディアを設定する方法の詳細は、[15 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。

2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。

たとえば、次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーから**、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」をクリックし、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で**「`reset /System`」と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。

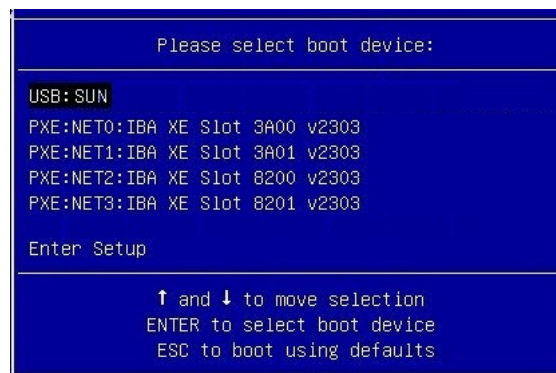


注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

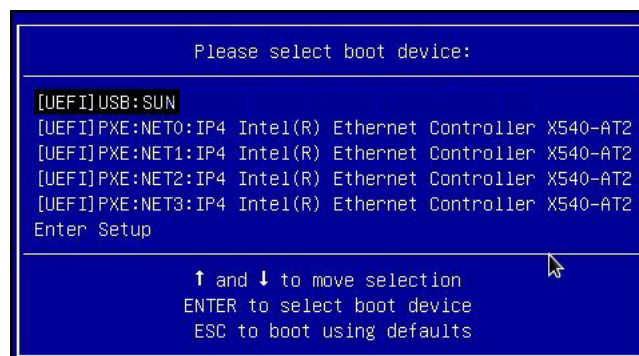
3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、Linux OS のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。

[Boot Pop Up Menu Selected] が BIOS 画面の最下部に表示され、「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、「UEFI/BIOS Boot Mode」をレガシー BIOS に構成したか UEFI に構成したかに応じて異なります。

- レガシー BIOS ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



- UEFI ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



注記 - インストール時に表示される「Please Select Boot Device」メニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプや、PCIe ネットワークカードなどのほかのハードウェアによって異なる場合があります。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、使用対象として選択した Linux OS メディアのインストール方法と BIOS ブートモードに応じたメニュー項目を選択し、Enter キーを押します。

例:

- レガシー BIOS ブートモードで Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションによる提供方法を使用することを選択した場合は、レガシー BIOS 画面で **USB: SUN** を選択します。

- UEFI ブートモードで Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションによる提供方法を使用することを選択した場合は、UEFI 画面で [UEFI]USB:SUN を選択します。
5. インストールプログラムによって表示される次の画面は、レガシー BIOS ブートモードまたは UEFI ブートモードのどちらを選択したかによって異なります。
- レガシー BIOS ブートモードを選択した場合は、「Welcome to Oracle Linux Server」ブート画面が表示されます。
 - UEFI ブートモードを選択した場合は、「Booting Oracle Linux Server」ブート画面が表示されます。
6. このインストールを行うために、次のいずれかを実行します。
- レガシー BIOS ブートモードでインストールを実行することを選択した場合、デフォルトを受け入れて Enter キーを押します。
 - UEFI ブートモードでインストールを実行することを選択した場合、Enter を押すか、画面がタイムアウトになるまで待ちます。

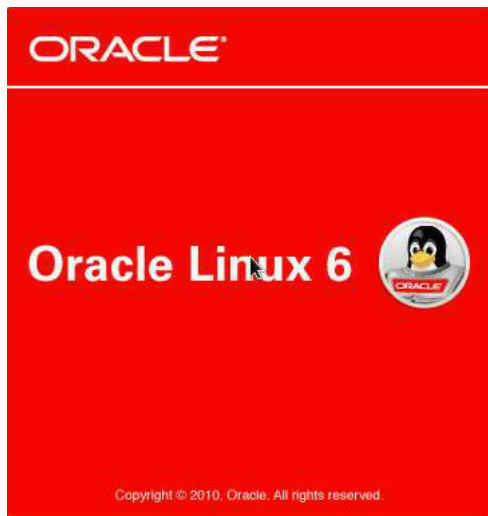
「Disc Found」画面が表示されます。



7. 今回はじめて、このメディアからインストールを実行する場合は、「OK」を選択してメディアをテストすることを検討してください。それ以外の場合は、「skip」を選択して Enter キーを押します。

注記 - 以前にこのディスクを使用してインストールを実行したことがある場合は、「Skip」を選択します。それ以外の場合は、「OK」を選択してディスクをテストします。

Oracle Linux 6 のスプラッシュ画面が表示されます。



8. Oracle Linux 6 のスプラッシュ画面の最下部にスクロールし、「Next」をクリックします。
「What language would you like to use during the installation process?」画面が表示されます。
9. 適切な言語を選択し、「Next」をクリックします。
「このシステム用の適切なキーボードを選択します。」画面が表示されます。
10. 適切なキーボード構成を選択し、「次」をクリックします。
「どちらのタイプのストレージデバイスにインストールしますか?」画面が表示されます。

What type of devices will your installation involve?

Basic Storage Devices

☒ Installs or upgrades to typical types of storage devices. If you're not sure which option is right for you, this is probably it.

Specialized Storage Devices

☐ Installs or upgrades to enterprise devices such as Storage Area Networks (SANs). This option will allow you to add FCoE / iSCSI / zFCP disks and to filter out devices the installer should ignore.

11. 上記の画面で、「エンタープライズストレージデバイス」を選択し、画面の最下部までスクロールして、「次」を選択します。

注記 - 「エンタープライズストレージデバイス」を選択すると、次の画面で Oracle SSM の選択を解除できます。これにより、この手動インストールの残りの作業が実行しやすくなります。

「オペレーティングシステムをインストールするドライブを選択してください」画面が表示されます。

Below are the storage devices you've selected to be a part of this installation. Please indicate using the arrows below which devices you'd like to use as data drives (these will not be formatted, only mounted) and which devices you'd like to use as system drives (these may be formatted). Please also indicate which system drive will have the bootloader installed.

Data Storage Devices (to be mounted only)			
Model	Capacity	Vendor	Identifier
LSI MR9361-8i	571250 MB	LSI	pci-0000:01:00.0-scsi-0:2:0:0
LSI MR9361-8i	571250 MB	LSI	pci-0000:01:00.0-scsi-0:2:1:0
ORACLE SSM	3700 MB	ORACLE	pci-0000:00:1a.0-usb-0:1.2:1.0-scsi-0

Install Target Devices

Boot Loader	Model	Capacity	Identifier
-------------	-------	----------	------------

Tip: Install target devices will be reformatted and wiped of any data. Make sure you have backups.

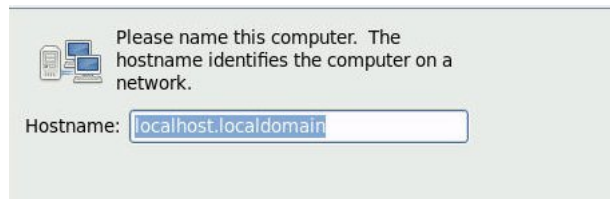
Back Next

12. オペレーティングシステムをインストールするストレージドライブを選択し、画面の最下部までスクロールして、「次」をクリックします。



注意 - Oracle SSM ドライブをインストール先に選択しないでください。このドライブは Oracle System Assistant に予約されており、ブートドライブあるいはストレージドライブとして絶対に使用しないでください。Oracle SSM フラッシュドライブの詳細については、[20 ページの「インストール先オプション」](#)を参照してください。

「このコンピューターのホスト名を指定してください」画面が表示されます。



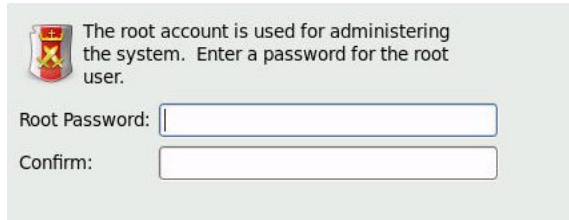
13. ホスト名を入力し、「次」をクリックします。
タイムゾーン選択の画面が表示されます。



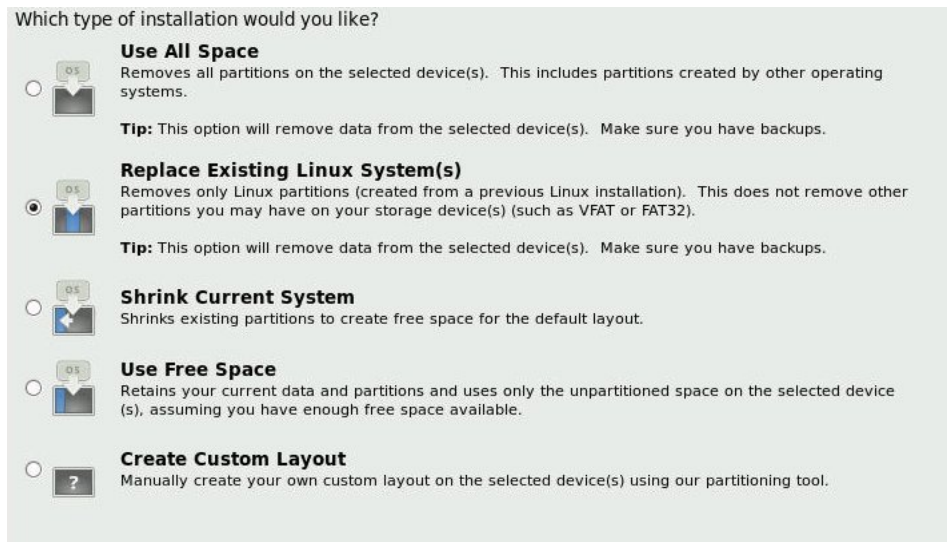
14. 適切な地域および都市を選択し、「次」をクリックします。

注記 - NTP サービスが必要な場合、オペレーティングシステムのインストール後にセットアップできます。

「root パスワード」画面が表示されます。



15. **root** パスワードを入力し、「次」をクリックします。
「どのタイプのインストールをしますか?」画面が表示されます。

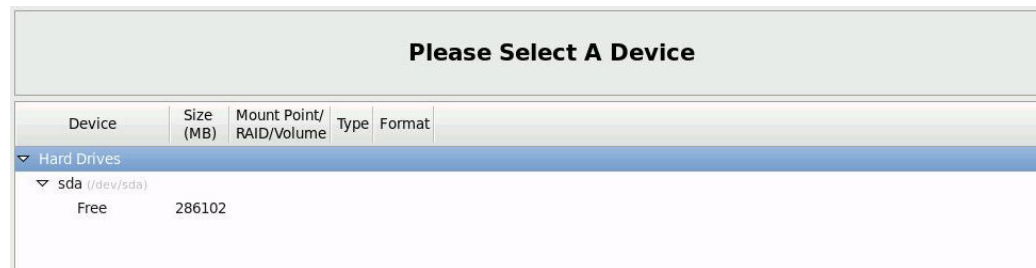


Which type of installation would you like?

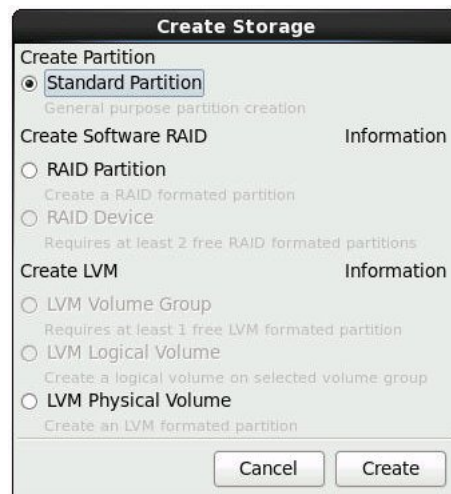
- ☐ **Use All Space**
Removes all partitions on the selected device(s). This includes partitions created by other operating systems.
Tip: This option will remove data from the selected device(s). Make sure you have backups.
- ☒ **Replace Existing Linux System(s)**
Removes only Linux partitions (created from a previous Linux installation). This does not remove other partitions you may have on your storage device(s) (such as VFAT or FAT32).
Tip: This option will remove data from the selected device(s). Make sure you have backups.
- ☐ **Shrink Current System**
Shrinks existing partitions to create free space for the default layout.
- ☐ **Use Free Space**
Retains your current data and partitions and uses only the unpartitioned space on the selected device(s), assuming you have enough free space available.
- ☐ **Create Custom Layout**
Manually create your own custom layout on the selected device(s) using our partitioning tool.

16. 前述の画面で適切なオプションを選択し、「次」をクリックします。

たとえば、オペレーティングシステムをインストールするストレージドライブが空で、「カスタムレイアウトを作成する」を選択した場合、「デバイスを 1 つ選択してください」画面が表示されます。

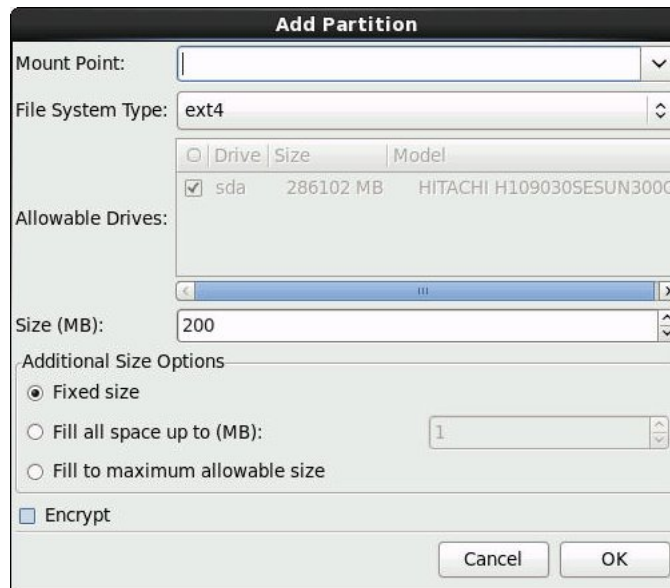


17. パーティションを作成するには、次を行います。
 - a. 画面の最下部にスクロールし、「作成」をクリックします。
「ストレージの作成」ダイアログが表示されます。



- b. 「標準のパーティション」を選択し、「作成」をクリックします。

「パーティションの追加」ダイアログが表示されます。



The image shows a 'Add Partition' dialog box with the following fields and options:

- Mount Point:** A text field with a dropdown arrow.
- File System Type:** A dropdown menu showing 'ext4'.
- Allowable Drives:** A table with columns 'Drive', 'Size', and 'Model'. It contains one entry: 'sda' (286102 MB, HITACHI H109030SESUN300G) which is checked.
- Size (MB):** A text field showing '200'.
- Additional Size Options:** A section with three radio buttons: 'Fixed size' (selected), 'Fill all space up to (MB):' (with a value of '1'), and 'Fill to maximum allowable size'.
- Encrypt:** A checkbox that is unchecked.
- Buttons:** 'Cancel' and 'OK' buttons at the bottom right.

- c. このダイアログで、「マウントポイント」を「/boot」に設定し、「ファイルシステムタイプ」は「ext4」に、「サイズ (MB)」は「200」にそれぞれ設定されたままにします。

更新された「パーティションの追加」ダイアログを次に示します。

- d. 「OK」をクリックします。
パーティションが作成されます。
- e. 上の手順 a から手順 d までを繰り返して、次の追加パーティションを作成します。

Mount Point	File System Type	サイズ (MB)
/boot/efi 注記 - このパーティションは UEFI ブートモードを選択した場合にのみ作成できます。レガシー BIOS ブートモードではサポートされません。	EFI システムパーティション	200
/	ext4	20000
なし	スワップ	16384

更新されたパーティション画面が表示されます。

Hard Drives				
▼ sda (/dev/sda)				
sda1	200	/boot/efi	EFI System Partition	✓
sda2	200	/boot	ext4	✓
sda3	20000	/	ext4	✓
sda4	16384		swap	✓
Free	249317			

18. 「次」をクリックしてパーティションを適用します。

次のダイアログが表示されます。



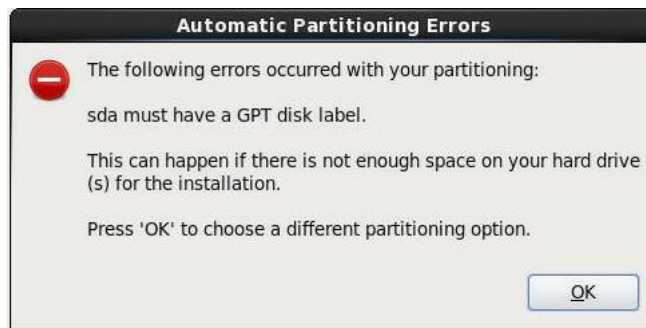
19. 「変更をディスクに書き込む」をクリックします。

ディスクパーティションエラーがない場合は、ブートローダーのインストール画面が表示され、[ステップ 21](#)に進みます。ディスクパーティションエラーがある場合は、[ステップ 20](#)に進みます。



20. インストール先のディスクにデータ形式の問題がある場合は、「Automatic Partitioning Errors」画面が表示されます。

注記 - オペレーティングシステムを UEFI ブートモードでインストールしている場合、GUID パーティションテーブル (GPT) フォーマット済みディスクが必要なため、次の画面が表示されます。レガシー BIOS ブートモードでインストールしているときにディスクフォーマットのエラーが発生した場合、マスターブートレコード (MBR) フォーマット済みディスクが必要なことを示す類似の画面が表示されます。



上の画面が表示された場合は、Oracle Linux をインストールしようとしているディスクが間違ってフォーマットされており、このディスクを再フォーマットする必要があります。

注記 - このエラーは、以前レガシー BIOS フォーマットでデータを保存するのに使用していたストレージドライブに、UEFI ブートモード OS インストールを実行しようとした場合、またはその逆の場合に発生します。UEFI は GPT フォーマットを使用しますが、レガシー BIOS はストレージドライブを MBR フォーマットでフォーマットします。サーバーの出荷時に装備されていたストレージドライブは新しいものなので、フォーマットされていません。フォーマットされていないディスクにインストールする場合には、このエラーは表示されません。

インストールを中止せずにディスクを回復して再フォーマットするには、インストール画面でキーボードの「戻る」ボタンを数回クリックし、[ステップ 7](#) に示す最初の Oracle Linux スプラッシュ画面に戻って、これらの手順を実行します。

- a. 復旧シェルを開始するには、**Ctrl+Alt+F2** と入力します。
シェルが表示されます。

- b. このインストールの必要に応じて **GPT** 形式または **MBR** 形式でディスクを再フォーマットするには、次の画面に示すようにシェルコマンドを入力します。

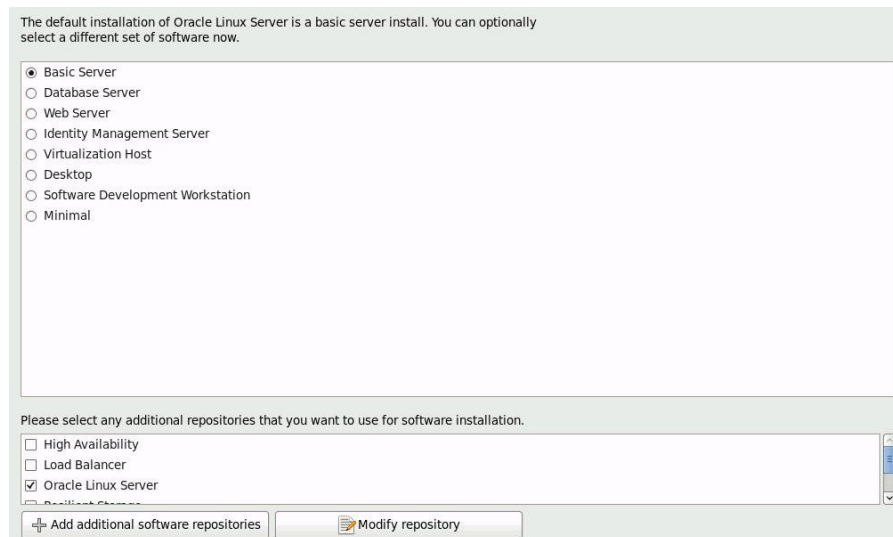
```
anaconda root@localhost /]# parted /dev/sda
GNU Parted 2.1
Using /dev/sda
Welcome to GNU Parted! Type ???help' to view a list of commands.
(parted) p
Model: LSI MR9361 (scsi)
Disk /dev/sda: 300GB
Sector size (logical/physical): 512B/512B
Partition Table: msdos (or gpt for Legacy BIOS Boot Mode)
Number  Start   End     Size    Type    File system  Flags
 1      1049kB  21.5GB  21.5GB  primary ext2
(parted) mklabel
New disk label type? gpt (or msdos for Legacy BIOS Boot Mode)
Warning: The existing disk label on /dev/sda will be destroyed and all data will be
lost.
Do you want to continue?
Yes/No? yes
(parted) p
Model: LSI MR9361 (scsi)
Disk /dev/sda: 300GB
Sector size (logical/physical): 512B/512B
Partition Table: gpt
Number  Start   End     Size    File system  Name  Flags
(parted) g
Information: You may need to update /etc/fstab.
anaconda root@localhost /]#
```

- c. **Ctrl+Alt+F6** を入力してグラフィカルインストール画面に戻り、**Oracle Linux** のスプラッシュ画面の時点からインストールを続行します (**ステップ 7** に移動します)。

注記 - ほとんどの場合、このインストールで入力した値は保存されているため、それらの値を再入力する必要はありません。

21. ブートローダーのインストール画面で、**/dev/sda1** へのブートローダーのインストールを選択し、「次」をクリックします。

「インストールするサーバーソフトウェアの選択」画面が表示されます。



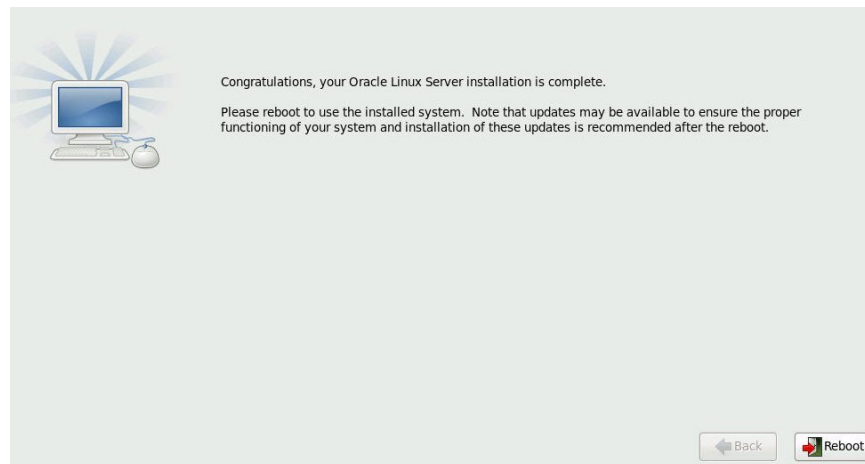
「基本サーバー」がデフォルトのサーバーソフトウェアのインストールですが、別のソフトウェアのセットをオプションで選択することもできます。さらに、この画面の最下部で「今すぐカスタマイズ」を選択して、選択されたソフトウェアのカスタムインストールを行うこともできます。

22. このサンプルインストールを行うために、デフォルトの「基本サーバー」を指定して、「次」をクリックします。

「インストール処理の開始」画面が表示されます。

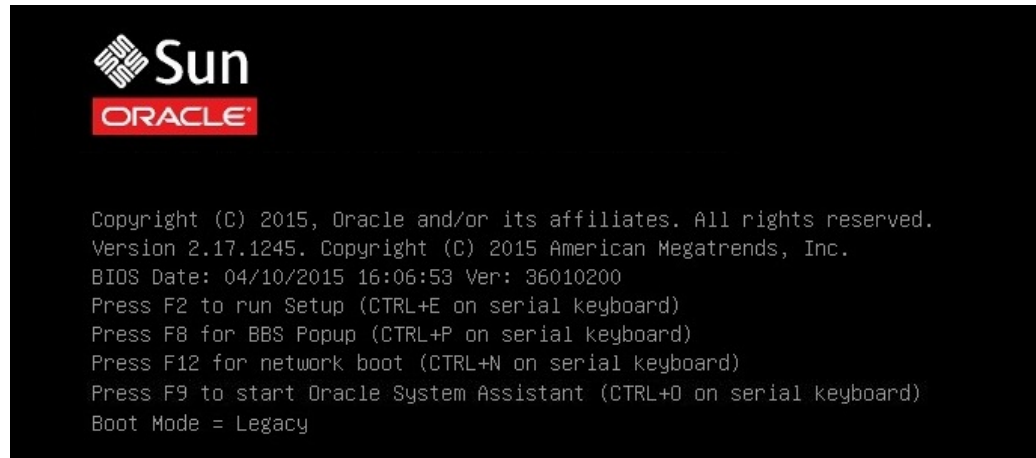


23. Oracle Linux OS のインストールが完了するまで待ちます。
インストールが完了すると、次の画面が表示されます。



24. Oracle Linux インストールをリブートするには、「リブート」をクリックします。

サーバーがリブートし、BIOS 画面が表示されます。



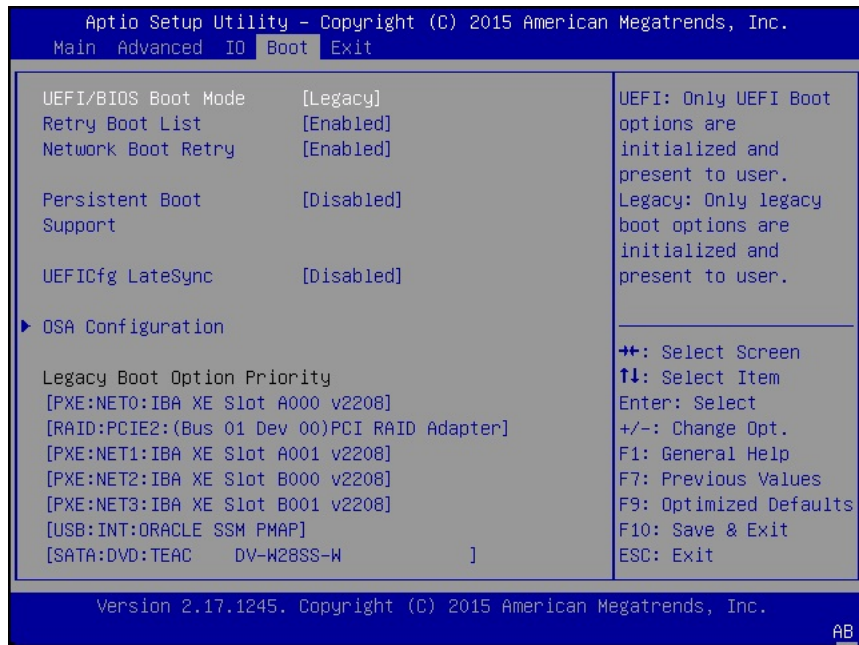
25. BIOS 設定ユーティリティにアクセスして、インストールしたオペレーティングシステムからブートするようにサーバーを設定するには、F2 キーを押します。

BIOS 設定ユーティリティ画面が表示され、ブートメニューが選択されています。表示される BIOS 画面や、インストールを続行するために必要なアクションは、OS をインストールするために選択した UEFI/BIOS ブートモードによって異なります。

- レガシー BIOS ブートモードで OS をインストールした場合は、[ステップ 26](#)に進みます。
- UEFI ブートモードで OS をインストールした場合は、[ステップ 27](#)に進みます。

26. レガシー BIOS ブートモードで OS をインストールした場合は、これらの手順を実行して、[ステップ 28](#)に進みます。

- a. 次に示す BIOS 設定ユーティリティ画面で、下向きの矢印キーを使用して、「Legacy Boot Option Priority」の下にある [USB:SUN] を選択し、Enter を押します。



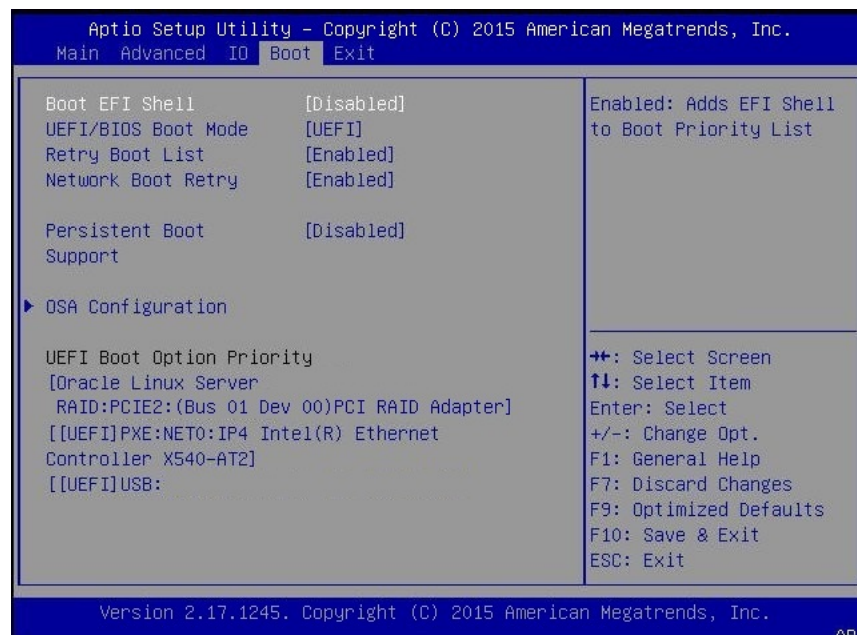
注記 - インストールで表示される BIOS ブート画面は、サーバーに取り付けられているディスクコントローラやその他のハードウェア (PCIe ネットワークカードなど) のタイプによって異なる場合があります。

「Boot Option #1」ダイアログが表示されます。

- b. 「[RAID: PCIE2: (...) PCI RAID Adapter]」を選択し、Enter キーを押します。
「[RAID: PCIE2: (...) PCI RAID Adapter]」がいちばん上の位置に移動します。
- c. F10 キーを押して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了してから、[ステップ 28](#)に進みます。

27. UEFI ブートモードで OS をインストールした場合は、次の手順を実行します。

- a. 下に示す BIOS 設定ユーティリティ画面で、「[Oracle Linux Server (RAID: PCIE2: (...) PCI RAID Adapter)]」が「UEFI Boot Option Priority」フィールドの下最初のオプションとして一覧表示されていることを確認します。



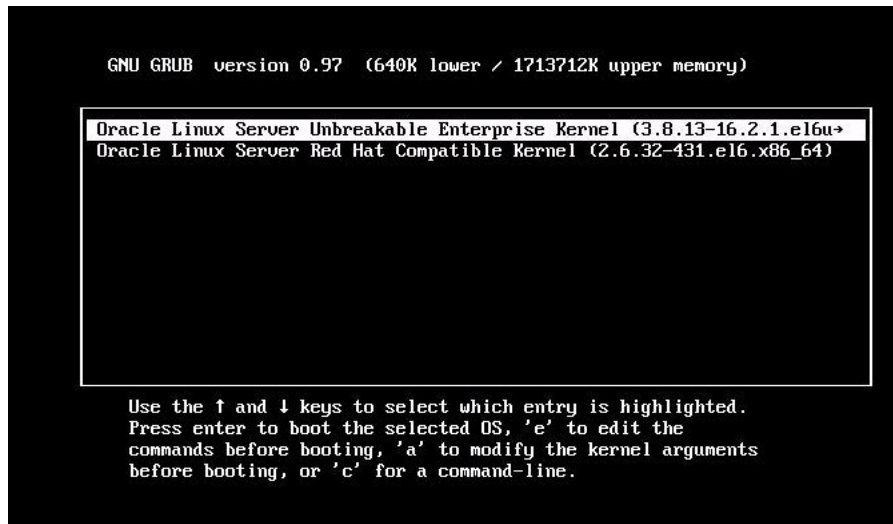
注記 - インストールで表示される BIOS ブート画面は、サーバーに取り付けられているディスクコントローラやその他のハードウェア (PCIe ネットワークカードなど) のタイプによって異なる場合があります。

- b. F10 キーを押して BIOS 設定ユーティリティを終了します。
28. リブートが進行する間、お待ちください。
次のカーネル画面が表示されます。
- ```
Press any key to enter the menu
Booting Oracle Linux Server Unbreakable Enterprise Kernel (3.8.13-16.2.1.el6uek.x86_64) in
2 seconds...
```
- Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux はデフォルトのカーネルです。
29. デフォルトのカーネルを変更しない場合は、[ステップ 31](#)に進みます。それ以外の場合は、[ステップ 30](#)に進みます。

30. (オプション) Oracle Linux 6.6 をインストールしているときに、Red Hat 互換カーネルに切り替える場合は、次を実行します。

- a. いずれかの文字キーを押します。

GNU GRUB 画面が表示されます。



- b. Red Hat 互換カーネルの場合は、2 番目のメニューオプションを選択して Enter キーを押します。
31. Oracle Linux のインストールを完了し、目的の Linux カーネルでサーバーをリブートしたあと、[69 ページの「Oracle Linux 6.6 または 7.1 OS のインストール後のタスク」](#)に進みます。

## ▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して Oracle Linux 7.1 OS を手動でインストールする

この手順では、ローカルまたはリモートメディアから Oracle Linux OS 7.1 をインストールする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから Oracle Linux インストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Oracle Linux OS 7.1 DVD セット (外付け DVD)
- Oracle Linux OS 7.1 の ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、[65 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Oracle Linux 6.6 または 7.1 をインストールする」](#)の手順を参照してください。

1. インストールメディアがブートに使用できることを確認します。

- **配布 DVD の場合は**、Oracle Linux OS 7.1 配布メディアブートディスク (DVD) をローカルまたはリモートの DVD-ROM ドライブに挿入します。
- **ISO イメージの場合は**、Oracle Linux OS 7.1 ISO イメージが使用可能であり、その ISO イメージが KVMs メニューを使用して Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションにマウントされていることを確認します。

インストールメディアを設定する方法の詳細は、[15 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。

2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。

たとえば、次のいずれかを行います。

- **ローカルサーバーから**、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」をクリックし、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で**「reset /System」と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。

---

**注記** - 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

---

3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、Linux OS のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。

[Boot Pop Up Menu Selected] が BIOS 画面の最下部に表示され、「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、「UEFI/BIOS Boot Mode」をレガシー BIOS に構成したか UEFI に構成したかに応じて異なります。

---

**注記** - インストール時に表示される「Please Select Boot Device」メニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプや、PCIe ネットワークカードなどのほかのハードウェアによって異なる場合があります。

---

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、使用対象として選択した Linux OS メディアのインストール方法と BIOS モードに応じたメニュー項目を選択し、Enter キーを押します。

例:

- レガシー BIOS ブートモードで Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションによる提供方法を使用することを選択した場合は、レガシー BIOS 画面で USB:SUN を選択します。
  - UEFI ブートモードで Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションによる提供方法を使用することを選択した場合は、UEFI 画面で [UEFI]USB:SUN を選択します。
5. インストールプログラムによって表示される次の画面は、レガシー BIOS ブートモードまたは UEFI ブートモードのどちらを選択したかによって異なります。
- レガシー BIOS ブートモードを選択した場合は、「Welcome to Oracle Linux Server」ブート画面が表示されます。
  - UEFI ブートモードを選択した場合は、「Booting Oracle Linux Server」ブート画面が表示されます。
6. このインストールを行うために、次のいずれかを実行します。
- レガシー BIOS ブートモードでインストールを実行することを選択した場合、デフォルトを受け入れて Enter キーを押します。
  - UEFI ブートモードでインストールを実行することを選択した場合、Enter を押すか、画面がタイムアウトになるまで待ちます。

「Disc Found」画面が表示されます。この画面から、インストールを実行する前にメディアをテストするかどうかを選択できます。

7. 今回はじめて、このメディアからインストールを実行する場合は、「OK」を選択してメディアをテストすることを検討してください。それ以外の場合は、「Skip」を選択して Enter キーを押します。

---

注記 - 以前にこのディスクを使用してインストールを実行したことがある場合は、「Skip」を選択します。それ以外の場合は、「OK」を選択してディスクをテストします。

---

Oracle Linux 7.1 のスプラッシュ画面が表示されます。

8. Oracle Linux 7.1 のインストール手順に進みます。これは、Oracle Linux 7.1 の製品ドキュメントライブラリ ([http://docs.oracle.com/cd/E52668\\_01](http://docs.oracle.com/cd/E52668_01)) に含まれています。

---

**注記** - Oracle Linux 7.1 には、Oracle Linux 6.x とは異なる動作や結果を発生させる新機能が含まれています。インストールは慎重に進めてください。

---

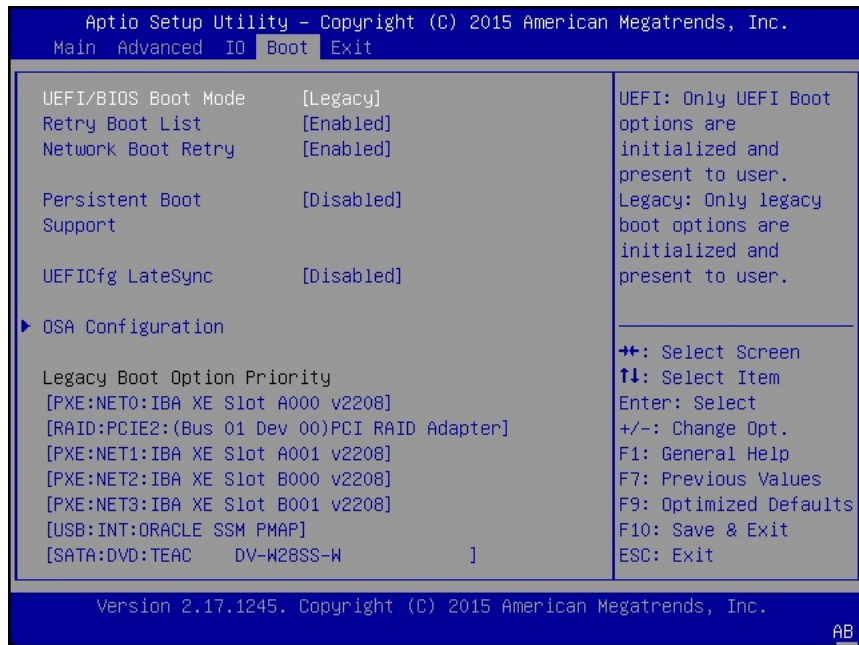
インストールが完了すると、サーバーがリブートして BIOS 画面が表示されます。

9. **BIOS 設定ユーティリティにアクセスして、インストールしたオペレーティングシステムからブートするようにサーバーを設定するには、F2 キーを押します。**

BIOS 設定ユーティリティ画面が表示され、ブートメニューが選択されています。表示される BIOS 画面や、インストールを続行するために必要なアクションは、OS をインストールするために選択した UEFI/BIOS ブートモードによって異なります。

- レガシー BIOS ブートモードで OS をインストールした場合は、[ステップ 10](#)に進みます。
  - UEFI ブートモードで OS をインストールした場合は、[ステップ 11](#)に進みます。
10. **レガシー BIOS ブートモードで OS をインストールした場合は、これらの手順を実行して、[ステップ 12](#)に進みます。**

- a. 次に示す BIOS 設定ユーティリティ画面で、下向きの矢印キーを使用して、「Legacy Boot Option Priority」の下にある [USB:SUN] を選択し、Enter を押します。



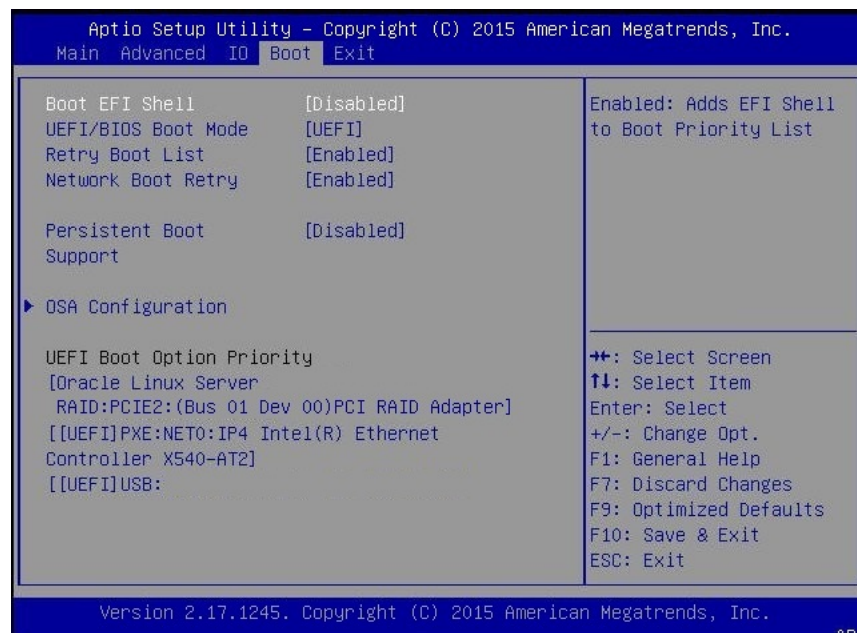
注記 - インストールで表示される BIOS ブート画面は、サーバーに取り付けられているディスクコントローラやその他のハードウェア (PCIe ネットワークカードなど) のタイプによって異なる場合があります。

「Boot Option #1」ダイアログが表示されます。

- b. 「[RAID: PCIE2: (... ) PCI RAID Adapter]」を選択し、Enter キーを押します。  
「[RAID: PCIE2: (... ) PCI RAID Adapter]」がいちばん上の位置に移動します。
- c. F10 キーを押して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了してから、[ステップ 12](#)に進みます。

11. UEFI ブートモードで OS をインストールした場合は、次の手順を実行します。

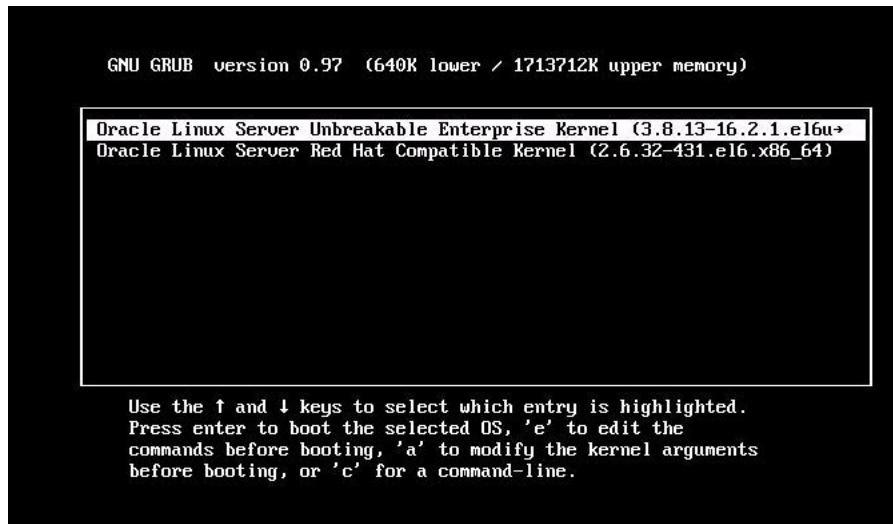
- a. 下に表示 BIOS 設定ユーティリティー画面で、「[Oracle Linux Server (RAID: PCIE2: (...) PCI RAID Adapter)]」が「UEFI Boot Option Priority」フィールドの下の最初のオプションとして一覧表示されていることを確認します。



注記 - インストールで表示される BIOS ブート画面は、サーバーに取り付けられているディスクコントローラやその他のハードウェア (PCIe ネットワークカードなど) のタイプによって異なる場合があります。

- b. F10 キーを押して BIOS 設定ユーティリティーを終了します。
12. リブートが実行する間、お待ちください。  
次のカーネル画面が表示されます。
- ```
Press any key to enter the menu
Booting Oracle Linux Server Unbreakable Enterprise Kernel (3.8.13-16.2.1.el6uek.x86_64) in
2 seconds...
```
- Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux はデフォルトのカーネルです。
13. デフォルトのカーネルを変更しない場合は、[ステップ 15](#)に進みます。それ以外の場合は、[ステップ 14](#)に進みます。

14. (オプション) Oracle Linux 7.1 をインストールしているときに、Red Hat 互換カーネルに切り替える場合は、次を実行します。
 - a. いずれかの文字キーを押します。
GNU GRUB 画面が表示されます。



- b. Red Hat 互換カーネルの場合は、2 番目のメニューオプションを選択して Enter キーを押します。
15. Oracle Linux のインストールを完了し、目的の Linux カーネルでサーバーをリブートしたあと、[69 ページの「Oracle Linux 6.6 または 7.1 OS のインストール後のタスク」](#)に進みます。

▼ PXE ネットワークブートを使用して Oracle Linux 6.6 または 7.1 をインストールする

この手順では、PXE ネットワーク環境から Oracle Linux 6.6 または 7.1 をインストールする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Oracle Linux 6.6 または 7.1 の ISO DVD イメージ
- Oracle Linux 6.6 または 7.1 Kickstart イメージ (ネットワークリポジトリ)

Kickstart は自動インストールツールです。これにより、システム管理者は、通常であれば Oracle Linux の標準的なインストール中に指定されるインストールおよび構成パラメータの一部またはすべてに対する設定を含む単一のイメージを作成できます。通常、Kickstart イメージは 1 つのネットワークサーバー上に配置され、インストールのために複数のシステムによって読み取られます。

始める前に Oracle Linux PXE インストールを実行する前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

- Kickstart イメージを使用してインストールを実行している場合は、次のことを行う必要があります。
 - Kickstart ファイルを作成します。
 - Kickstart ファイルを含むブートメディアを作成するか、または Kickstart ファイルをネットワーク上で使用可能にします。
- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次のことを行う必要があります。
 - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを構成します。
 - TFTP サーバー上に PXE ブートに必要なファイルを構成します。
 - PXE 構成からブートするようにサーバーの MAC ネットワークポートアドレスを構成します。
 - DHCP (動的ホスト構成プロトコル) を構成します。

Oracle Linux 6 での Kickstart および PXE ネットワークインストールの詳細は、http://docs.oracle.com/cd/E37670_01/index.html にある『Oracle Linux インストールガイド』を参照してください。

Oracle Linux 7.1 での Kickstart および PXE ネットワークインストールの詳細は、http://docs.oracle.com/cd/E52668_01/E54695/html/index.html にある Oracle Linux 7.1 のインストールガイドを参照してください。

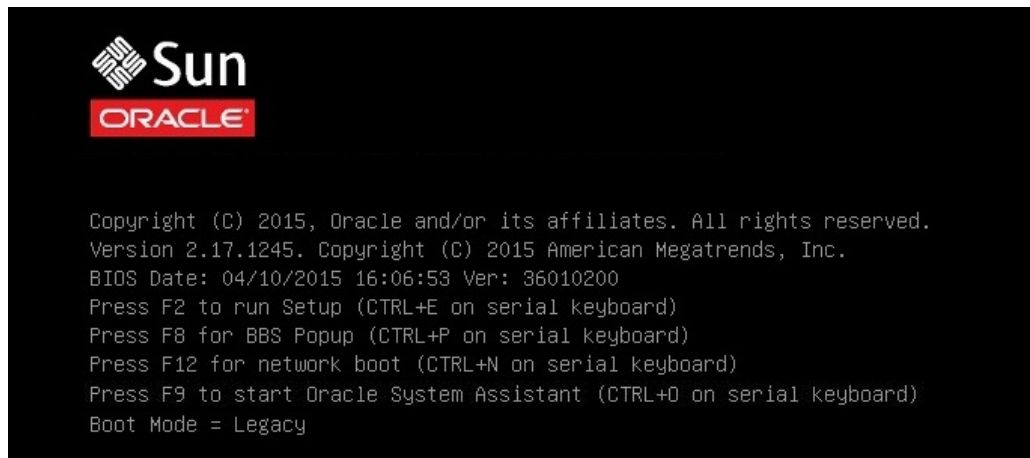
1. **PXE ネットワーク環境が正しく設定され、Oracle Linux インストールメディアが PXE ブートに使用できることを確認します。**
2. **サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。**

たとえば、次のいずれかを行います。

 - **ローカルサーバーでは**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
 - **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」をクリックし、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
 - **Oracle ILOM CLI で**「reset /System」と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。

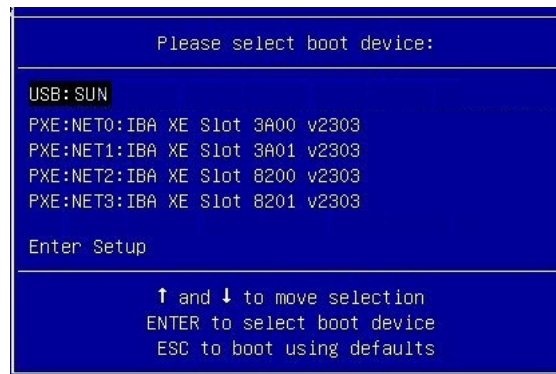
注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。



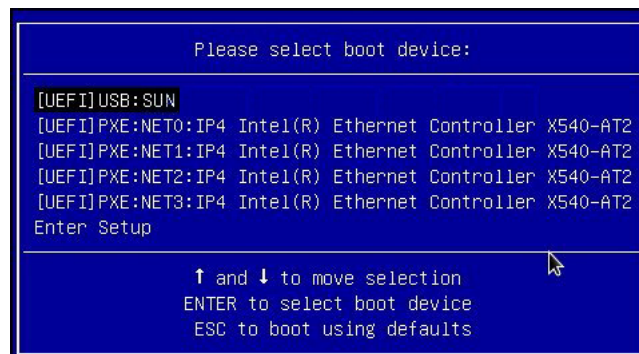
3. **BIOS 画面で、F8 キーを押して、Linux OS のインストールで使用する一時ブートデバイス**を指定します。

[Boot Pop Up Menu Selected] が BIOS 画面の最下部に表示され、「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、「UEFI/BIOS Boot Mode」をレガシー BIOS に構成したか UEFI に構成したかに応じて異なります。

- レガシー BIOS ブートモードの場合、次の画面が表示されます。



- UEFI ブートモードの場合、次の画面が表示されます。



注記 - インストール時に表示される「Please Select Boot Device」メニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプや、PCIe ネットワークカードなどのほかのハードウェアによって異なる場合があります。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、PXE ネットワークインストールサーバーと通信するように構成されたネットワークポートを選択し、Enter キーを押します。
ネットワークブートローダーがロードされ、実行を開始します。
5. ここから先は、インストール手順がサイト固有になり、そのサイトの Kickstart ファイルによって決定されます。

Oracle Linux 6.6 または 7.1 OS のインストール後のタスク

Oracle Linux 6.6 または 7.1 をインストールしたあと、Oracle にシステムを登録し、サブスクリプションをアクティブ化して、ソフトウェアの自動更新を受信するようにしてください。これにより、サーバーで最新バージョンのオペレーティングシステムが実行されることが保証されます。次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.oracle.com/technetwork/articles/servers-storage-admin/yum-repo-setup-1659167.html>

サーバーを最新のアップデートで更新したあとは、オペレーティングシステムを使用する前に、必ずサーバーをリブートしてください。サーバーを最新のアップデートに更新すると、Oracle Linux オペレーティングシステムへの最新の機能強化がサーバーに確実に装備されるだけでなく、オプションの NVMe ストレージドライブ (取り付けられている場合) の正しい動作に必要な最新バージョンの Unbreakable Enterprise Kernel (UEK) for Linux もサーバーで確実に実行されるようになります。

Red Hat Enterprise Linux OS の単一システムへの手動でのインストール

このセクションでは、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.7 および 7.1 for x86 (64 ビット) と Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールする手順について説明します。

次のトピックが含まれています。

- 69 ページの「RHEL 6.6 または 7.1 OS のインストールのタスクマップ」
- 70 ページの「始める前に」
- 71 ページの「ローカルまたはリモートメディアを使用して RHEL 6.6 または 7.1 OS を手動でインストールする」
- 74 ページの「PXE ネットワークブートを使用して RHEL 6.6 または 7.1 をインストールする」
- 78 ページの「RHEL 6.6 または 7.1 OS のインストール後のタスク」

RHEL 6.6 または 7.1 OS のインストールのタスクマップ

次の表は、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) オペレーティングシステムをインストールするための概略の手順の一覧とその説明を示しています。

手順	説明	リンク
1.	サーバーハードウェアを設置し、Oracle ILOM サービスプロセッサを構成します。	■ 「Install the Server into the Rack」 in 『Oracle Server X5-8 Installation Guide 』 ■ 「Cabling the Server」 in 『Oracle Server X5-8 Installation Guide 』 ■ 「Connecting to Oracle ILOM」 in 『Oracle Server X5-8 Installation Guide 』
2.	サーバーでサポートされている Linux のバージョンを確認します。	12 ページの「サポートされている Linux オペレーティングシステム」
3.	RHEL インストールメディアを入手します。	https://access.redhat.com/downloads にアクセスしてください。
4.	プロダクトノートを確認します。	http://www.oracle.com/goto/X5-8/docs-videos にある『Oracle Server X5-8 プロダクトノート』
5.	インストールを実行するために使用するコンソール、RHEL メディア、およびインストール先を設定します。	■ 13 ページの「コンソール表示オプションの選択」 ■ 15 ページの「ブートメディアオプションの選択」 ■ 20 ページの「インストール先オプションの選択」
6.	OS の新規インストール用に BIOS 設定を指定します。	25 ページの「ブート環境の準備」
7.	RHEL OS をインストールします。	■ 71 ページの「ローカルまたはリモートメディアを使用して RHEL 6.6 または 7.1 OS を手動でインストールする」 ■ 74 ページの「PXE ネットワークブートを使用して RHEL 6.6 または 7.1 をインストールする」
8.	インストール後のタスクを実行します。	78 ページの「RHEL 6.6 または 7.1 OS のインストール後のタスク」
9.	(オプション) Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールします。	78 ページの「(オプション) ローカルまたはリモートコンソールを使用して RHEL に Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールする」

始める前に

次の要件が満たされていることを確認してください。

- ブートドライブ (つまり、OS をインストールしているストレージドライブ) を RAID 用に構成する場合は、Linux OS をインストールする前に行う必要があります。サーバー上に RAID を構成する方法については、「[Configure Storage Drives for OS Installation](#)」 in 『Oracle Server X5-8 Installation Guide 』を参照してください。
- ファームウェアを目的のブートモード (レガシー BIOS または UEFI) に設定します。ブートモードを設定する方法については、28 ページの「[ブートモードを設定する](#)」を参照してください。
- UEFI ファームウェアの設定が正しく設定されていることを確認します。UEFI ファームウェアの設定を確認し、必要に応じてそれを設定する方法については、25 ページの「[ブート環境の準備](#)」を参照してください。
- インストールを実行する前に、コンソール表示オプションが選択および設定されていること。このオプションと設定手順の詳細は、13 ページの「[コンソール表示オプションの選択](#)」を参照してください。

- インストールを実行する前に、ブートメディアが選択および設定されていること。このオプションおよび設定手順の詳細は、[15 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。
- インストールを実行する前に、インストール先オプションが選択および設定されていること。このオプションと設定手順の詳細は、[20 ページの「インストール先オプションの選択」](#)を参照してください。

▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して RHEL 6.6 または 7.1 OS を手動でインストールする

この手順では、ローカルまたはリモートメディアから Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.6 または 7.1 オペレーティングシステムのインストールをブートする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから RHEL インストールメディアをブートすることを前提にしています。

- RHEL 6.6 または 7.1 DVD セット (外付け DVD)
- RHEL 6.6 または 7.1 の ISO DVD イメージ

PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、[74 ページの「PXE ネットワークブートを使用して RHEL 6.6 または 7.1 をインストールする」](#)の手順を参照してください。

RHEL OS のインストールの詳細は、<https://access.redhat.com/site/documentation/en-US>にある RHEL ドキュメントコレクションを参照してください。

1. インストールメディアがブートに使用できることを確認します。

- **配布 DVD の場合は**、Red Hat 配布メディアブートディスク (単一の DVD) をローカルまたはリモートの USB DVD-ROM ドライブに挿入します。
- **ISO イメージの場合は**、Red Hat ISO イメージが使用可能であり、その ISO イメージが KVMs メニューを使用して Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションにマウントされていることを確認します。

インストールメディアを設定する方法の詳細は、[15 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。

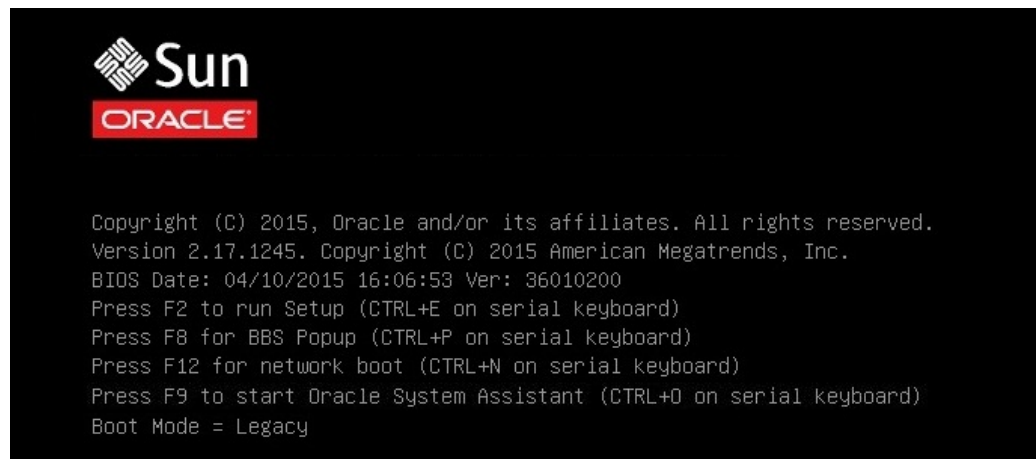
2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。

たとえば、次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーでは**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。

- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」をクリックし、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で**「reset /System」と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。

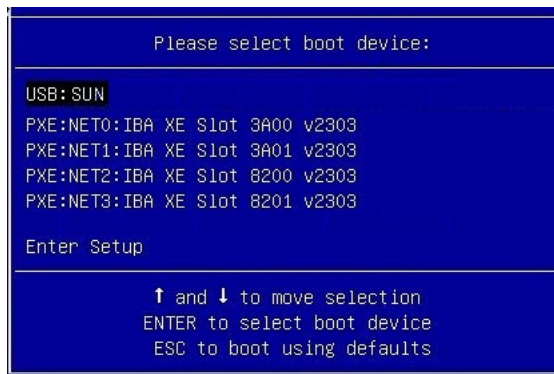


注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

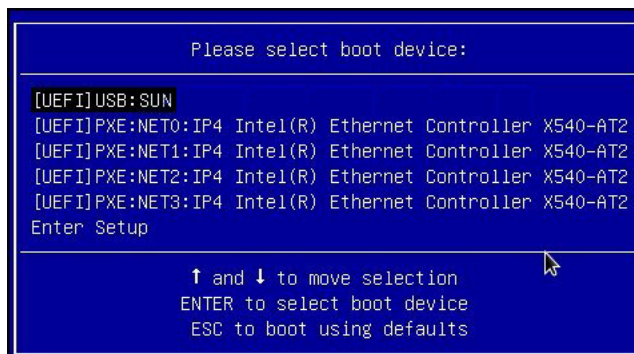
3. **BIOS 画面で、F8 キーを押して、RHEL のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。**

[Boot Pop Up Menu Selected] が BIOS 画面の最下部に表示され、「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、「UEFI/BIOS Boot Mode」をレガシー BIOS に構成したか UEFI に構成したかに応じて異なります。

- レガシー BIOS ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



- UEFI ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



注記 - インストール時に表示される「Please Select Boot Device」メニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプや、PCIe ネットワークカードなどのほかのハードウェアによって異なる場合があります。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、最初のブートデバイスとして外付けまたは仮想 DVD デバイスを選択し、Enter キーを押します。

数秒後、RHEL インストールのスプラッシュ画面が表示されます。スプラッシュ画面の下半分に、説明、ファンクションキー、およびブートプロンプトが表示されます。

5. Red Hat Enterprise Linux のスプラッシュ画面で、「Next」をクリックして、標準的な対話式インストールを続行します。

または、テキストモードで、次のコマンドを入力します。

boot: **linux text**

6. 画面上の指示と Red Hat のドキュメントに従って、Red Hat インストールの基本設定を続行します。

詳細なインストール手順については、次の Web サイトにある Red Hat Enterprise Linux のインストールガイドを参照してください。

<https://access.redhat.com/site/documentation/en-US>

注記 - Oracle Linux 6.6 または 7.1 OS、あるいは Oracle VM 3.3 ソフトウェアがディスクにインストール済みの場合は、ディスクをパーティション分割してインストール済みの OS を削除するか、またはインストール済みの OS を保持し、ディスクをパーティション分割してデュアルブートオペレーティングシステムをサポートすることを選択できます。

7. Red Hat インストールの基本設定が完了したら、**78 ページの「RHEL 6.6 または 7.1 OS のインストール後のタスク」**に示されているインストール後のタスクを実行します。

▼ PXE ネットワークブートを使用して RHEL 6.6 または 7.1 をインストールする

この手順では、PXE ネットワーク環境から Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.6 または 7.1 をブートする方法について説明します。ここでは、RHEL 6.6 または 7.1 Kickstart イメージ (ネットワークリポジトリ) からインストールメディアをブートすることを前提にしています。

Kickstart は、Red Hat の自動インストールツールです。これにより、システム管理者は、通常であれば Red Hat Linux の標準的なインストール中に指定されるインストールおよび構成パラメータの一部またはすべてに対する設定を含む単一のイメージを作成できます。通常、Kickstart イメージは 1 つのネットワークサーバー上に配置され、インストールのために複数のシステムによって読み取られます。

始める前に RHEL PXE インストールを実行する前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

- Kickstart イメージを使用してインストールを実行している場合は、次のことを行う必要があります。
 - Kickstart ファイルを作成します。
 - Kickstart ファイルを含むブートメディアを作成するか、または Kickstart ファイルをネットワーク上で使用可能にします。

- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次のことを行う必要があります。
 - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを構成します。
 - TFTP サーバー上に PXE ブートに必要なファイルを構成します。
 - PXE 構成からブートするようにサーバーの MAC ネットワークポートアドレスを構成します。
 - DHCP (動的ホスト構成プロトコル) を構成します。

次の Web サイトにある Red Hat Enterprise Linux 管理ガイドの PXE ネットワークインストール手順に従ってください。

<https://access.redhat.com/site/documentation/en-US>

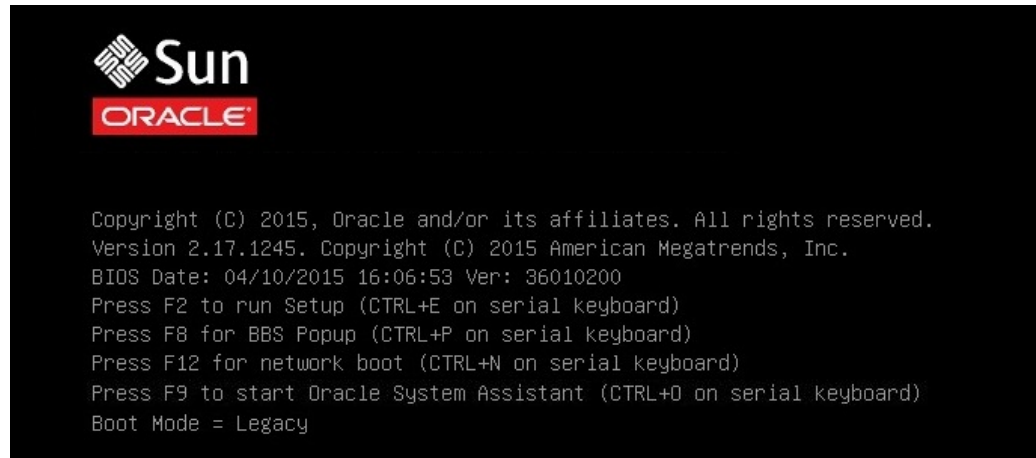
1. **PXE ネットワーク環境が正しく設定され、RHEL インストールメディアが PXE ブートに使用できることを確認します。**

2. **サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。**

たとえば、次のいずれかを実行します。

- **ローカルサーバーでは**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」をクリックし、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で**「`reset /System`」と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。

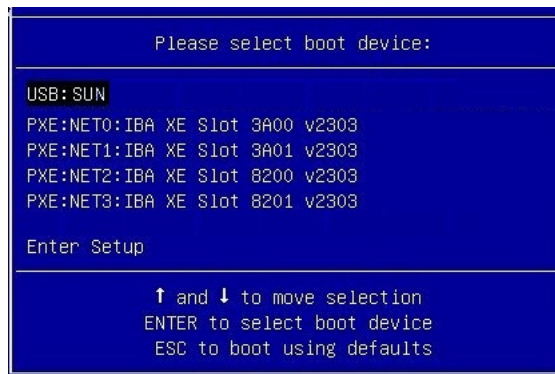


注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

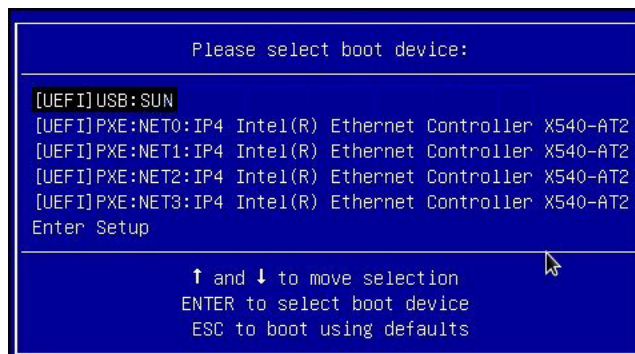
3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、RHEL のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。

[Boot Pop Up Menu Selected] が BIOS 画面の最下部に表示され、「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、「UEFI/BIOS Boot Mode」をレガシー BIOS に構成したか UEFI に構成したかに応じて異なります。

- レガシー BIOS ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



- UEFI ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



注記 - インストール時に表示される「Please Select Boot Device」メニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラのタイプや、PCIe ネットワークカードなどのほかのハードウェアによって異なる場合があります。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、PXE ネットワークインストールサーバーと通信するように構成された PXE インストールブートデバイス (物理ネットワークポート) を選択し、Enter キーを押します。
ネットワークブートローダーがロードされ、ブートプロンプトが表示されます。数秒後、インストールカーネルのロードが開始されます。
5. ここから先は、インストール手順がサイト固有になり、そのサイトの Kickstart ファイルによって決定されます。

RHEL 6.6 または 7.1 OS のインストール後のタスク

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.6 または 7.1 OS のインストールが完了したら、次のインストール後のタスクを確認し、システムに適用可能なタスクを実行するようにしてください。

- 78 ページの「RHEL を登録して自動更新をアクティブ化する」
- 78 ページの「OS 更新をダウンロードしてインストールする」
- 78 ページの「(オプション) ローカルまたはリモートコンソールを使用して RHEL に Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールする」

RHEL を登録して自動更新をアクティブ化する

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) をインストールしたあと、RHEL サブスクリプションをアクティブ化して、ソフトウェアの自動更新を受信するようにしてください。詳細は、次の Web サイトにある Red Hat のサポートを参照してください。

<https://www.redhat.com/support/>

OS 更新をダウンロードしてインストールする

インストール後、必要に応じて、RHEL OS の最新のエラッタおよびバグ修正をダウンロードしてインストールしてください。詳細は、<http://access.redhat.com/site/documentation/en-US> にある Red Hat のドキュメントを参照してください。

(オプション) ローカルまたはリモートコンソールを使用して RHEL に Oracle Unbreakable Enterprise Kernel for Linux をインストールする

Red Hat Enterprise Linux 6.6 または 7.1 をインストールしたあと、Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux をインストールして使用することもできます。Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux をインストールする手順については、次の Web サイトを参照してください。

- <https://oss.oracle.com/ol6/docs/RELEASE-NOTES-UEK3-en.html>
- <http://docs.oracle.com/en/operating-systems/?tab=2>

索引

あ

- 一時ブートデバイス
 - Oracle Linux OS, 41, 60, 67
 - RHEL OS, 72, 76
- インストール
 - Oracle System Assistant の使用
 - Linux OS, 23
 - メディアの使用
 - Linux OS, 24
- インストールオプション
 - Linux OS, 22
- インストール後のタスク
 - Oracle Linux OS, 69
 - Oracle Unbreakable Enterprise Kernel のインストール
 - Oracle Linux OS, 69
 - RHEL OS, 78
 - RHEL OS, 78
 - オペレーティングシステムの更新
 - Oracle Linux OS, 69
 - RHEL OS, 78
 - 更新をダウンロードしてインストールする
 - RHEL OS, 78
 - 製品登録
 - Oracle Linux OS, 69
 - RHEL OS, 78
- インストール先オプション
 - Linux OS, 20
- 選択
 - Linux OS, 20
- ドライブの制限
 - Linux OS, 21
- ファイバチャネル Storage Area Network (SAN) デバイス
 - Linux OS, 22
- ローカルストレージドライブ
 - Linux OS, 21
- インストールのタスクマップ
 - Oracle Linux OS 6.6, 7.1, 38
 - RHEL OS, 69
- インストール方法
 - ブートメディアオプション, 15
- インストールメディア, 34
- オペレーティングシステムのインストール
 - 概要, 11
 - サポートされているオペレーティングシステム, 12
- オペレーティングシステムのインストールの概要, 11
- オペレーティングシステムの更新
 - Oracle Linux OS, 69
 - RHEL OS, 78

か

- 構成
 - RAID
 - Linux OS, 31
- コンソール表示
 - オプション, 13

さ

- サーバー
 - 電源リセット, 40
- サポートされているオペレーティングシステム, 12
 - Linux OS, 12

は

- ブートディスクイメージ
 - Oracle Linux OS 6.6, 40
 - Oracle Linux OS 7.1, 59
 - RHEL OS, 71
- ブートメディア, 16
- ブートメディアのインストール, 15

ま

- メディアを使用したインストール
 - Oracle Linux OS, 38
 - RHEL OS, 69

ら

- リモートコンソール
 - 設定, 14
- リモートブートメディア
 - 設定, 17
 - 要件, 16
- ローカルコンソール
 - 設定, 14
- ローカルブートメディア
 - 設定, 17
 - 要件, 16
- ローカルまたはリモートメディアを使用したインストール
 - Oracle Linux OS 6.6, 40
 - Oracle Linux OS 7.1, 59

B

- BIOS
 - 設定を編集および表示するための手順, 27

I

- ISO イメージ
 - Oracle Linux OS, 40, 60
 - RHEL OS, 71

K

- Kickstart
 - Oracle Linux OS, 65
 - RHEL OS, 74
- Kickstart を使用したインストール
 - RHEL OS, 74

O

- Oracle Linux 6.7 および 7.1 OS, 65
- Oracle Linux OS 7.1
 - ISO イメージ, 60
 - ローカルまたはリモートメディアによるインストール, 59
- Oracle Linux OS
 - ISO イメージ, 40
 - サーバーの電源リセット, 40, 60, 66
- Oracle Linux OS のインストール
 - タスクマップ, 38
- Oracle System Assistant を使用したインストール
 - Linux OS, 33

P

- PXE ネットワークブート
 - Oracle Linux OS 6.6、7.1, 65
 - RHEL OS, 74

R

- RAID
 - 構成, 31
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) OS
 - ISO イメージ, 71
 - サーバーの電源オン, 71
 - タスクマップ, 69
 - ブートディスクイメージ, 71

U

- UEFI
 - ブートモードの設定, 28